

自己表現力の向上を効果的に図るための指導法の工夫

高校教育研究係

金子 芳之（中学校教諭）

五十嵐 豊（中学校教諭）

I 主題設定の理由

文部科学省より平成20年9月に出された新学習指導要領解説では、中央教育審議会の答申（平成20年1月）を踏まえ、中学校英語教育においては4技能を総合的に育成する指導を充実することが求められている。具体的には「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、生徒が自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信できるようになることである。特に自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」、コミュニケーション活動で基本的な語彙や構文を活用する力、内容的にまとまりのある文章を書く力などの育成が重視されている。また、群馬県教育振興基本計画（平成21～25年）では、「英語を『話す』、『聞く』、『読む』、『書く』ことに慣れ、挨拶や応対、身近な話題などの簡単なコミュニケーションができるよう、体験的・実践的な授業を推進していく」ことが中学校英語教育での目標となっている。

以上のことを踏まえ、「実際のコミュニケーション活動の場面で、自然な速さで話される英語を聞き取り、その内容について自らの考えなどを話したり、書いたりしながら相手に伝えるための発信力のある生徒」を目指す生徒像と考えた。そこで、生徒が恒常的・継続的に興味・関心をもって取り組める教材や言語の使用場面を工夫しながら、自己表現力の向上を効果的に図るための指導法を研究するために本主題を設定した。

< 1 > 「表現力を身に付けるためにChunkを効果的に活用する教材の工夫」（金子 芳之）

II 研究のねらいと課題解決策

協力校における課題は、4月実施のNRT結果から「質問や依頼に適切に応じること」「適切な表現を用いて書くこと」「強勢や区切りに注意して話すこと」が挙げられる。平素の授業からは、一問一答で英会話が終わってしまったり、まとまりのある英文を書く力が不足したりしている様子が見られる。その原因は、第一に英文が **Chunk**（意味のまとまり）で構成されているという概念が不足し、第二に語と語や文と文のつながりを考える構成力が不足していることである。そこで実際のコミュニケーション活動において、つなぎ言葉を上手に使いながら会話を続けたり、自分の考えを伝える発信力を付けるために、単語レベルではなく **Chunk** を多く覚えることが必要であり、**Chunk** を組み合わせることで英文を作りやすくなる状況が生まれると考えた。そこで、会話や表現活動に役立つ言語材料を **Chunk** で覚えられるように工夫したインプリントシート「**Chunk Chunk Chunk**（以後 **Chunk³** と表記）」を活用することで、「3年生のChat（会話）指導」において自己表現力が向上したことを検証する。

検証方法として、話す活動では授業の様子をビデオ撮影したり、書く活動では課題となるワークシートを提出させたりして検証する。

- 4月～ テーマ設定・文献から情報収集・協力校の生徒実態調査
- 5月～ 研究推進（授業実践及び検証）
- 10月 研究授業及び授業研究会
- 12月 検証結果を基に課題のまとめ
- 2月 研究全体のまとめ（研究概要説明書の作成、研究成果の発信）

Ⅲ 課題解決のための具体的実践

以下のように計画を立て、継続的に授業実践を行ってきた。以下の内容が実践の流れになる。

3年生のChat(目標3分間)指導計画 & 実践

指導の流れ	時期	回数	配当時間	学習内容	活用場面 & 活用方法	使用ワークシート
実態調査 & 事前調査1	7月下旬	1	1時間	☆自分の発話能力の実態に気付く。	・生徒と教師が1対1で1分間のスピーキングテストを行い、ビデオ撮影(1回目)をする。 ・アンケートでの自己評価をさせる。	アンケート用紙 「Chunk ³ 導入編」
実態調査 & 事前調査2	9月下旬	1	1時間	☆自分の課題を自覚する。	・生徒同士によるペアを作り、1分間チャットを行い、ビデオ撮影(2回目)をする。 ・事前調査1の結果と1分間チャットを実践してから、自己評価として「課題発見レポート」をまとめる。 → 教師がよい会話例を「対話を続ける工夫レポート No.1」としてまとめる。	「課題発見レポート」 「Chunk ³ No.1」
1	9月下旬 ~ 10月上旬	5	第1時 ~ 第5時 各30分	☆会話を継続させる方法を見つける。 ①相づちを使う。 ②2文以上で答える。 ③質問をする。 ④疑問詞を使って話題を広げる。 ⑤対話を原稿に書き起こす。 ☆「Chunk ³ No.2」を使って語彙力をupするためのinput活動を継続的に行う。	・「対話を続ける工夫レポート No.1」から会話続ける方法を見つけさせる。(4クラス分で実践) ・見つけた方法を用いて「対話を続ける工夫レポート No.1」を使いながら会話練習させる。(2分間程度) ・第5時で、行った会話を「対話を続ける工夫レポート No.2」書き起こさせる。 → 教師がよい会話例を抜粋して「対話を続ける工夫レポート No.3」にまとめる。	「対話を続ける工夫レポート No.1」(クラス別に作成) 「対話を続ける工夫レポート No.2」 Chatカード(『中2で楽しく会話がつづく2分間チャット』指導の基礎・基本)より抜粋 「Chunk ³ No.2」
2	10月中旬	4	第6時 ~ 第9時 (各30分)	☆対話を続ける工夫を毎時間少しずつ見つけ、10個のキーワードにまとめる。 ①2文以上で答える。 ②関連質問をする。 ☆「Chunk ³ No.3」を使って語彙力をupするためのinput活動を継続的に行う。	・⑧「対話を続ける工夫レポート No.4」の分析結果を見て、次の目標を立てさせる。 ・⑦「対話を続ける工夫レポート No.3」で、会話をただ続けるだけでなく、話題を発展させる方法を見つけさせたり、見つけた方法を使うように意識させる。 ・見つけた方法を用いてChatカードを活用して会話練習させ、⑦を使って自己評価もさせる。 ・⑦の対話を続ける工夫レポート No.3の6つの空欄部分に当てはまるキーワードを教科書のモデル対話やJTEとALTのモデル対話から見つけさせる。	Chatカード 「対話を続ける工夫レポート No.3」 「対話を続ける工夫レポート No.4」 「Chunk ³ No.3」
3	10月下旬	4	第10時 ~ 第13時 (各30分)	☆会話を発展させる方法を客観的に学ぶ。「対話をうまく続ける10個のコツ」を実際に使っているか考える。	・4人一組になり、ペアの会話が沈黙が空いたら[ヘルプ係]が日本語で会話を続けるアドバイスを出す練習をさせる。全員が1回は[ヘルプ係]の練習ができるようにする。 ・これまで生徒が見つけてきた「対話をうまく続ける10個のコツ」を使っているか考えさせ、ヘルプ係の役割から対話を続けるヒントを感じ取らせる。	「対話を継続・発展させる工夫レポート No.1」
4	11月上旬 ~	1	第14時 (25分)	☆Web Mapを活用しながら会話を発展させる方向性を見極め、自分一人でヘルプ係の役割をする。	・Web Mapを活用して質問や応答の流れを考えながら、会話を発展させるための質問のつなぎ方を自分一人で考える。 ・最初は日本語でWeb Mapを活用して考えさせ、その後日本語→英語に変換する作業の中でどんな表現が必要になるのか考えさせる。	「対話を継続・発展させる工夫レポート No.2」
5	11月上 ~ 中旬	8	以後、毎時間始めの10分間で実施(8時間程度)	☆「Chunk Chunk Chunk」で覚えた表現を使って、「Let's challenge 2 minutes Chat」(最終目標3分間)を行う。	・「Let's challenge 2 minutes Chat」を使いながら、毎時間、違うパートナーと違う話題で会話を2分~3分間続けさせる。(回を重ねる毎にチャット時間を10秒ずつ増やしていく。)	「Let's challenge 2 minutes Chat」 Chatカード 「Chunk ³ No.4」
6	11月下旬	2	2時間	☆自分の英会話力がどれだけ伸びたか、その成果を調べる。	・2回目にビデオ撮影した生徒同士で、2分間チャットを行い、ビデオ撮影(3回目)をする。 ・事前調査で使用したアンケート用紙を使って事後アンケートを行う。 → アンケート結果から成果と課題を分析し、今後の継続指導に役立てる。	アンケート用紙 (事前・事後とも同じ調査用紙を使用する)

表 1

1 成果物の概要

これまでに数多くのワークシートを作成してきたが、その中のいくつかを抜粋して紹介する。研究のねらいでも述べたとおり、生徒の発信力を高めるために、コミュニケーション活動にお

いて、相手の話の内容に応じてつなぎ言葉を上手に使いながら会話を続けるために「Chunk 3」（図1）を作成した。これは、会話や表現活動に役立つ言語材料を Chunk 単位で覚えられるようにしたインプットシートである。

Worksheet of English for 3rd graders												
○ Chunk Chunk Chunk ! No.2 「話を上手につなぎ言葉」編												
Chunk (sense group:意味のまとまり)で覚えよう!												
Grade _____ No. _____ Name _____												
※下に出てくる意味のあるまとまりの語句を、日本語→英語にして、ペアで互いに1分間の制限時間内に何問答えられるかクイズ形式で挑戦してみよう。												
①ペアを作る。 ②お互いに自分のワークシートを交換して順番を決める。 ③1分ずつ互いに問題に答え、解答できた表現に○を付ける。												
★表現活動【1分30秒間・small talk】で互いに日常の情報交換が自信を持ってできるように、しっかり言葉（使える言葉の数）を増やそう！												
Small talkの中で使えた表現は●印に塗りつぶそう。 ※相手が英語で言えたら○印を入れてあげる。												
使用場面	No.	日本語 (Japanese)	No.	英語 (English)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
相つちを打つ	1	えーと	1	Wellまたは Let me see								
	2	わかったよ。	2	I see.								
	3	私もです。	3	Me, too.								
	4	えーホントに？	4	Oh, really?								
す聞き直	5	私もそう思います。	5	I think so, too.								
	6	すみませんが？	6	Sorry? または Excuse me?								
	7	もう一度言って下さい。	7	Pardon me? / Say that again, please.								
	8	あなたは どうですか？	8	How about you?								
る誉め	9	よくできたね。	9	Good job.								
	10	素晴らしい。	10	Wonderful! / That's great.								
理由	11	なぜ？	11	Why?								
	12	なぜならば	12	Because ~.								
説明	13	例えば	13	for example								
	14	第1に、第2に、第3に、それから	14	First,... Second,... Third,... And then...								
	15	とにかく	15	Anyway								
話題転換	16	ところで	16	By the way								
	17	私は～だと思ふ。	17	I think that ~.								
	18	私は～ではないかと心配する。	18	I'm afraid that ~.								
	19	私はそれは大切だと思ふ。	19	I suppose it is important.								
	20	それは良い考えだね。	20	That's a good idea.								
問題に答えられた総数												
Small talkで目標タイムをクリアしよう!					Small talkの中で使うことのできた表現の数							
					Small talkで目標時間をクリアできた時に★印をつけよう!							

図 1

上の「Chunk 3 No.2」では、実際の会話でよく使われるつなぎ言葉に焦点を当てている。シートの中の表現をインプットすることで、生徒同士が会話を上手に継続させられると考えた。

「Chunk 3 No.3」では、具体的な言語の使用場面を明示して質問文を覚えさせることで、相手から情報をうまく聞き出せるようにした。さらに、「Chunk 3 No.4」は、相手の質問に対する答え方に焦点を当て、スムーズな答え方ができることを目的とした。生徒が必要とする会話表現を段階的にインプットできるようにしたワークシートである。

次に、生徒同士に実践的な会話を行わせるときに、その会話のある程度継続できるようにするための工夫としてWeb Mapを活用したワークシート「対話を継続・発展させる工夫レポート No.2」を作成した。これは、生徒同士の会話が相づちを入れるだけの中身の薄い会話にならないように配慮したものである。Web Mapの活動では、第1段階として、日本語で2人の会話のやり取りを考えさせる。日常会話のやり取りを日本語で考えることで、いきなり英語で考えることの負担を軽減した。また第2段階では、Web Mapの中の日本語を英語にする作業をさせた。実際の会話では Chunk を使うことが多いことを、生徒に気付かせたいと考えている。

2 成果物の活用

(1) 「Chunk 3」と名付けたインプットシートを活用した実践は以下のとおりである。

まず、ワークシート「Chunk 3」の内容と読み方の確認を行う。一つのシートには20個の表現が含まれている。生徒は授業時間以外の時間を利用して基本表現を暗記する。授業開始の5分間で生徒はペアを作り、1分～1分30秒間の制限時間（暗記する内容の分量によって多少制限時間は増減する）を設定し、ワークシートの内容を暗記しているか、互いにチェックし合う。以上の活動を一つのシートにつき8回繰り返し暗記させた。8回のうち7回は単純に暗記のための練習とし、最後の1回を確認テストとした。テストで暗記できた表現の数に応じて評価を与えた。生徒は満点の20点を目指して意欲的に取り組んだ。

(2) 「Chat カード（『中2で楽しく会話が続ける「2分間チャット」指導の基礎・基本』道面和枝著：明治図書）」を活用して会話活動を行った。1回目は1分間の会話を継続することから

始め、最終段階では3分間会話を継続することを目標とした。会話のトピックは一つから段階的にその数を増やし、実践的なコミュニケーション活動になるようにした。「Chat カード」とは、会話の始めに行う質問（例：What food do you like ?）とそれに関係する絵（例えば、食べ物の絵：カレーライス）が印刷されているカードである。それを内容の難易度で3種類に色分けして印刷し、生徒が発話しやすい初級レベルの質問をピンク（例：What sport do you like ?）、中位レベルの質問をイエロー（例：Where do you usually go shopping ?）、上位レベルの質問をブルー（例：Do you think studying is important ?）にし、ラミネートしたものである。「Chunk³」の活動が終了した後、生徒2人のペアを作り、起立させたまま1分30秒間の制限時間を設定しコミュニケーション活動を行った。この活動を実施する上で、発話と発話の間で4秒以上の沈黙が続いた場合は着席するように指示し、最後まで起立して会話を続けることを目標とした。制限時間を10秒単位で徐々に伸ばし、最終的な目標は3分間会話を継続することを生徒に課した。また、どうすれば「相づち」や「つなぎ言葉」を上手に使えるか、相手の質問に対して2文以上で答えるにはどうしたらよいか、どのように質問を続ければ相手から情報を引き出せるのか、などについても生徒に考えさせた。生徒自身に学習した表現をどのように活用すべきか考えさせる機会を設けることで、インプットした表現の定着を図り、発信力を高めることにつながると考えた。

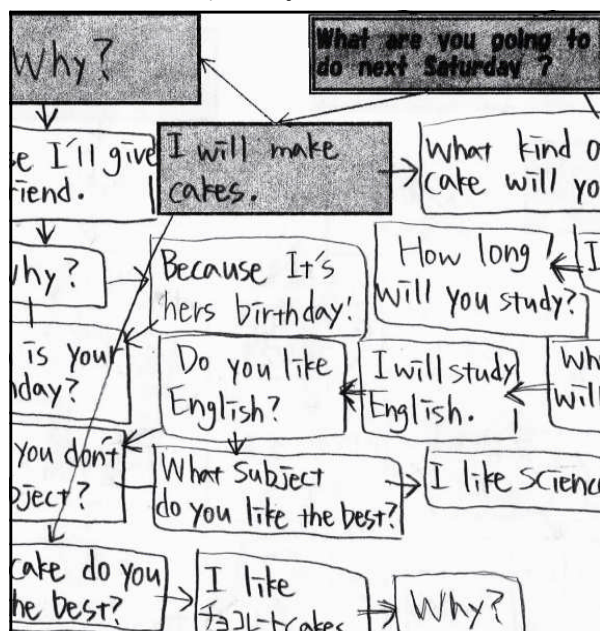


図2 Web Map の英語版

(3) 生徒同士の会話の質をさらに高めるために、Web Mapを活用したワークシート「対話を継続・発展させる工夫レポート No.2」を作成した。英語で3分間会話を続けることだけに目標を定めると、ただ同じような質問を繰り返し「相づち」を入れるだけになりがちである。会話が深まりのある、一歩踏み込んだレベルでの情報交換となるように工夫する必要がある。そこで、始めに「あなたは今度の土曜日に何をするつもりですか？ What are you going to do next Saturday ?」という質問を与え、そこから日本語で2人の会話のやり取りを考えながらWeb Mapを作らせた。日常会話がどのように行われているか考えさせるために、最初は日本語で考えさせ、次にそれを英語にするようにした。

IV 研究の成果と課題

1 成果

(1) Web Mapを使って日本語を英語に直す作業をする上で、生徒自身が実際の会話は Chunk 単位で応答することが多いことに気付くようになった。その結果、生徒同士の会話や JTE や ALT の質問に対して単語で答えるよりも Chunk で答えたり、定期テストの問題にも Chunk で答えるような生徒が増えてきた。

(例) 生徒 A … What are you going to do next Saturday ?
 生徒 B … I'm going to go to Takasaki Aeon.
 生徒 A … Oh, really? Why ?
 生徒 B … To watch a movie.

今までは一単語「movie」で答える生徒が多かったが、より自然な会話表現である Chunk を使った表現で答える生徒が増えてきた。

A: Have you ever been to Tokyo Disney Land ?
 B: Yes, I have. How about you ?
 A: Yes, I have. How many times did you go ?
 B: Four times. How about you ?
 A: Many times. What character do you like the best ?
 B: I like Daffy the best. How about you ?
 A: I like Dambo the best.
 B: What attraction do you like the best ?
 A: I like " It's a small world."
 B: Me, too.
 A: What parade do you like the best ?
 B: It's winter.
 A: Oh, I see.
 B: Have you ever been to Tokyo Disney Sea ?
 A: Yes, I have. How about you ?
 B: No, I haven't.
 A: Shall we go to Tokyo Disney Sea ?

「chatテスト」における生徒の会話

(2) 「対話をうまく続ける10個のコツ」を考えさせることに焦点を当てた活動に取り組んだ結果、「Chunk³」や「Chatカード」の活用を始めた当初に比べ、Chunkをうまく使って対話を続けられる生徒が増加してきた。

(3) 4人組を作り、ペアの会話に沈黙が生じた場合、「ペルプ係」が日本語で会話を続けるアドバイスをしたことによって、会話の続け方や発展のさせ方に気付く生徒が増えてきた。

(4) 「Chatテスト(2人組で会話をさせる)」のビデオ撮影後の生徒の感想は以下のとおりである。

【生徒感想】生徒1：1回目よりも長く

会話が続けられたと思います。「Chunk³」のおかげで、前より会話が長く続きました。生徒2：以前より会話が続き、話していて楽しかった。もっと話したいと思った。

また、生徒の実態を知るために実践活動の前後でアンケートをとった結果は以下のとおりである。(アンケート対象生徒 133名)

事前・事前アンケート結果		1:とてもよくあてはまる 2:まあまああてはまる				3:あまりあてはまらない 4:全くあてはまらない			
		1		2		3		4	
No.	項目	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
1	1分間Chat speaking testを行って、1分間チャット(チャット…ちょっとした会話のこと)が続きませんか？	39%	83%	0%	0%	0%	0%	61%	17%
2	対話を1分間続けることができた。	21%	56%	58%	39%	20%	5%	2%	1%
3	相づちを打つことができた。	13%	61%	48%	36%	34%	3%	6%	0%
4	2文以上で答えることができた。	17%	33%	32%	43%	45%	22%	5%	2%
5	さらに相手に質問することができた。	35%	35%	44%	43%	20%	19%	1%	3%
6	Chunkをつなぎ合わせて表現したいことを英語で言えた。	14%	9%	50%	44%	34%	43%	2%	5%
7	つなぎ言葉を場面に応じて上手に使うことができた。	9%	11%	44%	49%	41%	33%	6%	6%

表2

2 課題

(1) 実践的コミュニケーション能力を高めるために話すことを中心に取り組んできたため、英文を書く活動では、単語やChunkをどう結び付けるかが分からないという生徒もいることが上記のアンケートNo.6の結果や定期テスト、さらにChatテスト(ビデオ撮影)後の生徒の感想等から分かった。表現したいことは頭の中にあっても、1つのChunkだけでは多くの情報を相手に伝えることはできないので、より多くの情報を伝えるために必要となる文法や文構造を習得させるような指導が必要である。

(2) アンケートNo.5の1、2の数値が上がらなかった原因として、生徒に「Chatカード」の難易度の高いものを選択させたことと、「会話を3分間持続させること」から「話の内容の充実を図ること」に目標変更したことが影響したと考えられる。相手に質問するときには時制を変えたり、主語を変えたりする方法をパターン化し習得させることが必要である。

(3) 即時的なコミュニケーション活動をする上で、自分の意見が求められる会話になったときには、まだ自分の考えをうまく表現できない生徒がいる。そこで、生徒の意見や考えを表現させる質問やさらに多くの「Chatカード」を作成し、言語の使用場面を工夫して、会話経験を数多く積ませることも必要である。

< 2 > 「アウトプット活動につながる場面設定の工夫」(五十嵐 豊)

II 研究のねらいと課題解決策

協力校では、与えられた話題について、まとまりのある文を書いたり話したりすることが苦手な生徒が多い。これは、新しい文法事項の導入の際、文脈とその言語の使用場面を意識したインプットができていなかったことが原因として考えられる。例えば助動詞 **can** の使い方を定着させる際、その手だてが主語や動詞を入れ替えて練習するだけの活動になりがちで、目標文単独の定着にとどまっていたためである。

そこで、新しい文法事項導入の際、その使用場面を設定し、会話の方向や相手からの質問に対する応答を明確にイメージ化できるようにする。具体的には、実際の生徒の日常生活にかかわる話題を基に場面を設定し、その中に目標文を組み入れ会話文を構成する。その後の文型ドリルや言語活動でも目標文単文ではなく、会話形式で言わせたり、書かせたりすることを継続する。これを繰り返しながら生徒の会話能力の土台を作り、望ましい会話のモデル文を定着させる。以上の活動により、実際のコミュニケーション活動で相手の質問に適切に応答したり、英語で聞き取った情報を更に深めるための質問をその場で適切に発信したりするような力を効果的に高めることができることを授業実践を通して検証する。

話すことについてはALTやJTEとの口頭での会話テストやコミュニケーション活動のビデオ撮影等で、書くことについては単元テストやスキット作成等でそれぞれ検証する。

- 4月 研究計画の作成・テーマの決定（文献の調査、協力校の生徒実態調査）
- 5月～ 研究の推進（授業実践の開始）
- 11月 実践と検証（研究授業）
- 12月～ 検証を基に成果や課題のまとめ
- 2月 研究全体のまとめ（研究概要説明書の作成、研究成果の発信）

III 課題解決のための具体的実践

本研究は、各課（4パート構成）8時間学習の中の、それぞれのパート（2時間1サイクルの学習）について、研究対象を2年生（1学級：35名）とし、教科書はNew Horizon（東京書籍）のUnit 5に焦点を当て実践を行った。

以下の表は、新出文法事項を含む英文をコミュニケーション活動に積極的に活用することで英文の定着を図るために考えた1パート分（2時間）の学習サイクルを示したものである。

* 1パート2時間構成の学習サイクル	
第1時	
<1>導入	目標文を組み込んだモデルスキットを提示する。ここでは、その使用場面をイメージする。
<2>練習	「モデルスキット」を使ってペアワークをする。可能ならば部分的な単語の入れ替えも行い、会話の方向や応答の仕方に対する具体的なイメージをもつ。(話す活動)
<3>練習	ワークシートを使って新出文法事項の構造や意味を確認し、練習問題を解くことでその理解を深める。理解の程度に応じて発展問題にも取り組み、英文に慣れる。(書く活動)
<4>発展	ワークシートの「復習の手引き」で、会話を発展的に膨らませるためにいろいろな応用表現を知る。そして、モデルスキットを基にした、オリジナルスキットの作り方を確認する。
第2時	
<5>発展	「2分間のコミュニケーション活動」をペアで行い、場面に応じた目標文の使い方に慣れる。また、聞き取った情報について更に質問をしたり、そのような質問に対して適切に応答したりする活動も行い、会話を持続させるための様々なパターンを学ぶ。(話す活動・聞く活動)
家庭学習	
<6>発展	導入で学習したモデルスキットやコミュニケーション活動での応用表現を使って、オリジナルのスキットを構成する。(書く活動)
次のパートの学習の最初に review として	
<7>まとめ	第1時で導入した文法事項を含む英文を使って、生徒同士または教師と生徒で使用場面に応じて目標文を活用し、即興でコミュニケーション活動を行う。(話す活動・聞く活動)

1 成果物の概要とその活用方法

(1) 目標文を含む「モデルスキット」について

例えば接続詞の **that** を新出文法事項として導入する際、目標文を、「**I think natto is very delicious.**」というように単独で扱うのではなく、以下のように対話文の一部に組み入れて提示する。これにより、生徒は目標文の使用場面を具体的に知り、実際の会話の中でどのように使うのかをイメージできるようになる。このモデルスキットをペアワーク等で繰り返し練習させるとともに、下線部を別な表現に入れ替え、簡単な応用を行いながら会話全体を覚えさせる。導入の段階では、目標文は一つの表現に限定して練習させ、その確実な定着を図る。

* モデルスキット

A: You have natto for your lunch.

B: Yes. I love natto very much.

I think it is very delicious. (私は、それ(納豆)はとても美味しいと思います。)

What do you think?

A: I think so./ I don't think so.

(2) 「復習の手引き」について

新出文法事項の導入後、復習として「モデルスキットを基にしたオリジナルスキットの作成」を課題として与える(宿題)。この課題では第1時で学習したモデルスキットを基に、部分的な語句の入れ替えを行ったり、話題に関する質問文やその答えの文を考えたりしながら、会話を発展的に持続させるための具体的なイメージ作りを行う。この課題に取り組むための補助教材として「復習の手引き」を活用する。ここでは、モデルスキットを基にしたオリジナルスキットの作成例を示したり話題を膨らませるために既習表現を活用した質問作りのヒントを示したりし、生徒がスムーズに課題に取り組めるようにする。上記の例は、接続詞 **that** を用いた英文を含むオリジナルスキット作成のための「復習の手引き」である。

* 復習の手引き

A: You have natto for your lunch.

B: Yes. I love natto very much. **I think it is very delicious.** What do you think?

A: I think so.

↓
Oh, is it natto sandwich? Can I have a bite?

B: **Why not?**

会話を発展的に持続させるための応用表現の例

(3) 2分間のコミュニケーション活動について

モデルスキットを応用した2分間程度のコミュニケーション活動で、学習した表現を実際に自分の言葉を交えて使ってみる。また、聞き取った情報を基に既習事項を応用して関連する質問を発信したり、聞き取った質問に適切に応答する練習を行い、コミュニケーションを持続させる力を身に付ける。右のワークシートは、接続詞 **that** を用いた英文を含む発展的会話練習のためのモデルスキットである。ここでは **fried egg** (目玉焼き) という話題を基に、既習の様々な疑問文を使って「好きな朝食」、「卵と朝食の関係」、「卵を食べる頻度」等に話題を発展させながら、その場で質問を考え、即興的にコミュニケーションを持続させる練習を行う。

* モデルスキットの応用

A: **I think (that) we need soy sauce for fried eggs.** What do you think?

B: I think so./ I don't think so. **I think (that) we need ketchup.**

↓

A: **Do you like** fried eggs?

B: Yes, I do.

A: Me too. **What's your favorite** breakfast?

B: I like toast and fried eggs.

A: Really? I like rice. **Did you eat** egg today?

B: Yes, I did. I eat eggs for breakfast every day.

A: Every day? Wow! **How many eggs do you have** in a week?

B: I have 14. 以下続く (2分間終了まで)

↓以降が発展的会話練習となる

2 活動後の生徒の変容について

(1) 目標文の使用場面をイメージすることについて

<事前の調査> (対象生徒35人) Unit3 および Unit4 の目標文について、「その使用場面を

どの程度具体的にイメージできるか」と質問した。

○ 疑問詞を伴った疑問文

- ① What are you going to ~? (イメージできた生徒：17人、できなかった生徒：13人、未回答：4人)
- ② What did you do ~? (イメージできた生徒：22人、できなかった生徒：4人、未回答：8人)

○ 使用目的が限定されている命令文

- ③ You must not ~. (イメージできた生徒：23人、できなかった生徒：9人、未回答：2人)

結果は次のとおりである。

①から③については、比較的容易にその使用場面をイメージできていた。しかし①については進行形 be + ~ ing との文型上の混同、③については don't have to ~ との意味上の混同が見られる。したがって、目標文そのものの文型と意味をしっかりと定着させれば、場面に応じた使用は容易にできると考えた。

○ 不定詞の副詞的用法を含む文

- ④ You went to the park to ~. (イメージできた生徒：9人、できなかった生徒：16人、未回答：9人)

この文型の意味は概ね理解している（正しく和訳できた生徒：21名）ものの、使用される場面（行動する理由を表現したい時）が具体的にイメージできていなかった。④のような不定詞句を伴う英文は、それ自体で十分な情報量をもつため、定着を図る際、目標文単独での練習になりがちである。Unit5で扱う複文もそれ自体が十分な情報量をもつので、目標文単独での十分な理解に加え、このような文をどのような場面で使用するかを具体的に例示し、使用場面をすぐにイメージさせることで、それらの言語材料をコミュニケーション活動において積極的に活用できると考えた。

<Unit5の学習終了後の調査> (対象生徒34人) 「目標文を単独で導入するのではなく、対話文の一部に組み入れて扱う方法が、基本文の意味を理解したり、文を覚えたり、使い方を理解したりすることに役立ったか」という問いには、ほぼ全員の生徒(32人/34人中)が「役立った」と回答している。その主な理由として、「目標文を使う場面がすぐに思い浮かぶ」、「会話の流れがイメージできる」、「使用場面が解るので応用しやすい」などが挙げられた。

実際にUnit5で扱った新出文法事項について「その使用場面を、どの程度具体的にイメージできるか」と質問した結果は次のとおりである。

- ①...when ~. 「~の時...」(イメージできた生徒：23人、できなかった生徒：3人、未回答：8人)

- ②...if ~. 「もし~なら...」(イメージできた生徒：29人、できなかった生徒：2人、未回答：3人)

- ③~(that)... 「...ということをも」(イメージできた生徒：18人、できなかった生徒：4人、未回答：12人)

- ④...because ~. 「~なので...」(イメージできた生徒：20人、できなかった生徒：3人、未回答：11人)

「イメージできる」という回答率は高く、目標文を含んだモデルスキットの形式による目標文の導入方法が、その使用場面のイメージ作りに役立っていることが分かる。

(2) オリジナルのスキットを作成する活動について

目標文を含む対話文をノートに書き取り練習すると共に、その対話文を更に発展的に続けられるように、オリジナルの表現を書き加えることを家庭学習での復習課題とした。生徒が作成したスキットは、すべて教師が添削し、個別に助言を与えた。

この復習課題が「目標文の使い方を覚えたり、目標文を使ってコミュニケーション活動するときのイメージ作りに役立ったか」という問いに、29人の生徒が「役立った」と回答している。その主な理由として、「場面をイメージしながら行うので目標文が覚えやすい」、「応用でプラスしたオリジナルの英文を添削してもらえるので、コミュニケーション活動の際、自信をもって自己表現できる」などが挙げられており、スキット作りがコミュニケーション活動における目標文の積極的な活用につながっていることが分かった。

(3) コミュニケーション活動における目標文の活用について

Unit5の学習終了後に、目標文が実際のコミュニケーション活動で活用できたかについて、

具体的には学習サイクル<5>の「2分間のコミュニケーション活動」や、<7>の「生徒同士または教師と生徒で、即興で行うコミュニケーション活動」を行ったとき、学習サイクルの中のどの活動が目標文の活用に使役立ったかについて質問した。その結果と主な理由は次のとおりである。(複数回答可)

この結果から、本研究において実際に行った学習サイクルが、目標文を含む会話の進め方を明確にイメージさせ、実際のコミュニケーション活動で相手の質問に適切に回答したり、英語で聞き取った情報を更に深めるための質問をその場で適切に発信したりするような力を効果的に高めることに有効であったことが分かる。

- <2>練習 モデルスキットを使ってペアワークを行う(役立った:28人/35人)
 - ・スキットを基にペアでコミュニケーションすることで、会話の間合いがつかめる。
 - ・簡単な単語の入れ替えだけでも、自己表現しているという実感を味わえる。
 - ・ペアで教え合いができるので、間違いをその場で修正できる。
 - ・実際に声に出して話してみることで、発展的活動のためのイメージができる。
- <3>練習 ワークシートで新出文法事項の構造や意味を確認し練習問題を解く(14人/35人)
 - ・書きながら会話の構成を再確認できる。
 - ・書き換えの練習を応用表現に生かすことができる。
 - ・色々な問題を解くことで、場面に応じた英文の作り方が学習できる。
- <6>発展 オリジナルのスキットを構成する練習(25人/35人)
 - ・自分の考えていることを表現したいという欲求が満たされる。
 - ・会話の一部として目標文を使う練習になるので、応用表現を使ったときも、どういうときに使う表現なのかよく理解できる。
 - ・自分のオリジナルの文章を作り、書いていくうちに文型もしっかり理解できる。
 - ・復習として自分でスキットを考えることで、既習表現だけでも言えることはかなりたくさんあるのだな、ということを実感した。

IV 研究の成果と課題

1 成果

○教科書の本文も目標文の使用場面をイメージするためのモデルとなるが、それらの使用場面の中には生徒の日常生活からかけ離れたもの、内容が高尚で目標文の使い方を容易にイメージしづらいものなどがある。モデルスキットを作る際、生徒の日常生活にかかわる話題(食べ物・スポーツ・趣味)を積極的に取り上げ、それらを基に場面を設定し、その中に目標文を組み入れ会話を構成することで、目標文の使用場面をイメージできる生徒が増えた。また、目標文が「疑問文とその答え方」となっている場合、その使用場面をイメージすることは容易であるが、特定の会話のパターンをもたない英文(説明するような文:本研究で扱った従属接続詞を含む複文など)は、コミュニケーションの材料としてそれをとらえる場合、具体的な使用場面をイメージできるようなモデルが必要となる。そうした点からもスキット形式で目標文をとらえさせ定着させることは、会話の流れをイメージしづらい文法事項をコミュニケーションの材料として活用させることに有効であるということが本研究を通して確認できた。

○本研究のための学習サイクルによる活動を通して、目標文単独での十分な理解に加え、そうした文をどのような場面で使用するかを具体的に例示し、その使用場面がすぐにイメージできるような定着を図った結果、それらの言語材料をコミュニケーション活動に積極的に活用できる生徒が増えた。

2 課題

使用場面に応じて目標文を活用するイメージづくりはある程度できたが、実際のコミュニケーション活動においては、英語らしさを保ったり、自然な会話の流れを形成したりする要素として非言語的要素 nonverbal element、例えば facial expression (表情) / gesture (身振り手振り) / eye contact (視線)なども臨場感のある会話を成立させるために必要となる。また、相手に聞き返す表現、例えば Excuse me./ Sorry./ Pardon me.などを使ったり、聞き取ったことを繰り返したりすることも、会話を自然に持続させる大切な要素である。今後、これらの要素もコミュニケーション活動に適宜組み入れ、スムーズな会話のやりとりの実現に加え、日本語に頼らない英語らしい会話を実現できるよう、活動の内容を工夫したい。

1 minute chat 課題発見レポートNo. 1 (表)

Grade 3 Class No. Name _____

◇目標: カードを使った質問から対話を始め、1分間対話を続けられる。(4秒以上沈黙しない。)

『対話を続けるコツ』

- | | |
|------------------|------------------------|
| ①アイ・コンタクト | ②相づちを打つ |
| ③スマイル | ④and / butを使って2文以上で答える |
| ⑤How about you ? | ⑥さらに尋ねる(Why ? など) |

自分たちで実際に行った会話を書き出してみよう。

☆質問文:

☆対話 誰と誰の対話ですか？(A: _____ & B: _____)

A:

B:

A:

B:

A:

B:

A:

B:

A:

B:

A:

B:

1 minute chat 課題発見レポートNo. 1 (裏)

Grade 3 Class No. Name _____.

☆伝えたいことがあったのに、英語でどう言っているかわからなかったことを書いてみましょう。(日本語で)

①

②

③

④

◇対話を1分間続けられたのはなぜか？または1分間続けられなかったのはなぜか？どうすれば、続けられると思うか書いてみましょう。

①

②

③

④

○Chunk Chunk Chunk !

導入編

『チャットを始めるに当たって』編

○皆さんが中学校を卒業するまでに、こうなってほしいという理想の姿は…「英語で尋ねられたことに対して即座に反応することができて、3分間英語で会話が続けられる生徒」です。

○目標 相手と一つの話題について内容が深まるような会話を3分間継続できる。

レベルアップ	学年	会話継続目標タイム	会話内容の充実度目標	できるようになってほしいこと
① 基礎段階	中学1年	1分間	簡単な英語で自分の思いを相手に伝えたり自分から知りたいたい情報を相手から聞き出すことができる。	①スマイル&アイコンタクト ②相づち ③質問されたことに対して2文で答える ④相手に質問し返す ⑤繰り返す
② 応用段階	中学2年	2分間	事実関係を伝えたり、物事について判断したりした内容を取り入れながら相手と会話ができる。	①スマイル&アイコンタクト ②会話を継続・発展させるやり方に気付き、まとめる
③ 発展段階	中学3年	3分間	相手の興味を引く話題を探し、様々な考えや意見などを取り入れて深まりのある会話ができる。	①スマイル&アイコンタクト ②「会話を継続・発展させる10個のコツ」を常に意識してチャットを行う

※ 補足説明

- ①スマイル&アイコンタクト 外国人に限らず、人とコミュニケーションを図るときに笑顔で相手の目を見ることは、相手の話をちゃんと聞いていることの意味表示です。
 ②相づち 対話にリズムを与えたり、話しやすい状態にするための合いの手になる言葉やフレーズのことです。
 ③2文で答える 自分が伝えたいことを2つ以上の文にして相手に伝えることです。
 ④相手に質問し返す 相手との会話を深めるために、疑問詞等を使って話題を広げたり、深めたりする質問をすることです。
 ⑤繰り返す 相手が答えたことを自分が繰り返すことで、話されたことを再度確認できることです。

対話を続ける工夫レポートNo. 1(表)(3年2組バージョン)

Grade 3 Class No. Name

◇対話がうまく続いた例(No.1) (Hくん&Mくんの例)

☆質問: Do you like sports ?

☆対話1

A: Do you like sports ?
B: Yes, I do.
A: What sport do you like the best ?
B: I like baseball the best.
A: How about you ?
B: I like baseball the best, too.
A: Why do you like baseball ?
B: It is exciting and interesting. How about you ?
A: I think it is not easy.
B: That's right. Ahaha.....
A: What sport do you like the best ? Another another...
B: I like soccer.

◇対話がうまく続いた例(No.2) (Yさんくん&Oさんの例)

☆質問: Do you like sports ?

☆対話2

A: Do you like sports ?
B: Yes, I do. I like volleyball. Because volleyball is interesting.
How about you ?
A: I like soccer and softball. Soccer is very popular all over the world.
Soccer is interesting. Softball is exciting.
B: That's great.
A: How about you ?
B: I don't know.
B: I see.
A: Do you know Kashima ?
B: No, I don't. What is it ?
A: Kashima is a soccer team.
B: I see.

☆2つの対話が続いたのは…(うまくいった理由を考えよう。)

- ①
- ②
- ③
- ④

対話を続ける工夫レポートNo. 1(裏)(3年2組バージョン)

Grade 3 Class No. Name

◇対話がうまく続いた例(No.1) (Hくん&Mくんの例)

☆質問: Do you like sports ?

☆対話1

- A: Do you like sports ?
 B: Yes, I do.
 A: What sport do you like the best ? ←話題を深め・発展(Chunk³で学習)
 B: I like baseball the best.
 A: How about you ? ←⑤相手に聞き返す
 B: I like baseball the best, too.
 A: Why do you like baseball ? ←⑥さらに尋ねる
 B: It is exciting and interesting. How about you ? ←⑤相手に聞き返す
 A: I think it is not easy.
 B: That's right. Ahaha..... ←②相づち
 A: What sport do you like the best ? Another another...
 B: I like soccer.

◇対話がうまく続いた例(No.2) (YさんくんとOさんの例)

☆質問: Do you like sports ?

☆対話2

- A: Do you like sports ?
 B: Yes, I do. I like volleyball. Because volleyball is interesting. ←④2文以上で答える
 A: I like soccer and softball. Soccer is very popular all over the world.
 Soccer is interesting. Softball is excited. ←④2文以上で答える。話題を深め・発展(Chunk³で学習)
 B: That's great. ←②相づち
 A: How about you ? ←⑤相手に聞き返す
 B: I don't know.
 A: I see. ←②相づち
 Do you know Kashima ? ←話題を展開
 B: No, I don't. What is it ? ←④2文で聞き返す
 A: Kashima is a soccer team.
 B: I see. ←②相づち

『対話を続けるコツ』

- | | |
|------------------|------------------------|
| ①アイ・コンタクト | ②相づちを打つ |
| ③スマイル | ④and / butを使って2文以上で答える |
| ⑤How about you ? | ⑥さらに尋ねる(Why ? など) |

☆対話が続いたのは…

※Hくん&Mく say(対話1)

- ①「相手と目をあわせられた」:「スマイルだった」
- ②「さらに尋ねられた」:「How about you ? Why ? が多く使えた」
- ③▲「深まりのある内容にならなかった」:「内容が薄い」

※YさんくんとOさん say(対話2)

- ④「相手の話す内容が分かればOK」:「相手の言っていることが理解できれば対話を続けられる」
- ⑤▲「相手の質問が何なのかよく聞く」:「質問と違う答え方をしてしまった」

※Mr. kaneko says(対話1・2)

- ⑥ どちらも相づち(That's right. That's great. I see.)を使っていて、うまく対話を続けているところが素晴らしいですね。
- ⑦ 対話1では「What sport do you like the best ?」と話題を展開しているところが上手です。また、対話2では「Soccer is very popular all over the world.」のようにChunk³でも学習したことを上手に使っていて素晴らしいと思います。
- ⑧ 対話2でサッカーの話題からJリーグのチームの話題に展開していくのは、会話が途切れず自然な流れでとてもよいと思います。相手の話を受けて話題を上手につないでいくには、相手の言っていることをよく聞くことから始まります。

◎日本語で言いたかったこと(Hくん&Mくんの場合)

- | | | |
|---------------------|---|---|
| ① 他に好きなスポーツは何ですか | → | What other sports do you like ? |
| ② 好きな球団で好きな選手は何ですか？ | → | Who is your favorite player in your favorite team ? |
| ③ もう一つ好きなスポーツは何ですか？ | → | What another sport do you like ? |

対話を続ける工夫レポートNo. 2

Grade 3 Class No. Name _____

◇自分たちが実際におこなった対話を原稿に書き出してみよう！

☆質問:

☆対話 誰と誰の対話？(A: _____ & B: _____)

A:

B:

A:

B:

A:

B:

A:

B:

A:

B:

A:

B:

A:

B:

A:

B:

A:

B:

A:

B:

A:

☆対話練習に関するアンケート

※評価 4:よくできた 3:まあまあ 2:あまり 1:できなかった

① アイ・コンタクト&スマイル	4	3	2	1
② 相づち&つなぎ言葉(How about you ?など)	4	3	2	1
③ 2文(以上)で答える	4	3	2	1
④ 質問をする(5W1Hを使うなど)	4	3	2	1

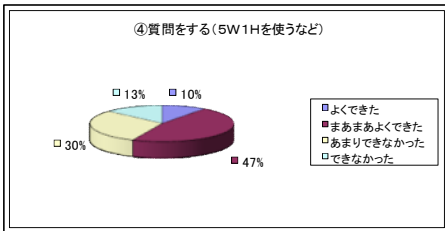
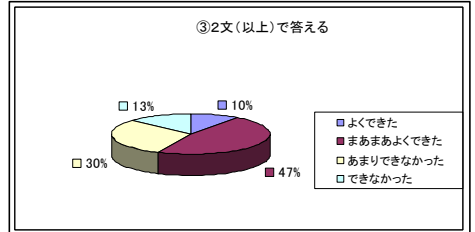
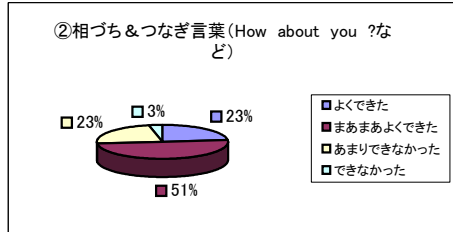
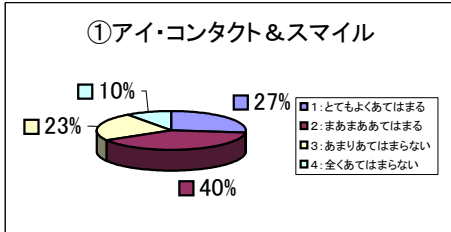
☆対話をしてみて課題と感ずること(自由記述)

--

対話を続ける工夫レポートNo. 3(表)(3年2組バージョン)

Grade 3 Class No. Name

☆アンケート結果から『対話を続ける工夫をどのように取り組んだのか?』その実態は…(2組は全部で16ペア)



全て達成ペア数で表示(書き起こし原稿から分析すると)

Me, too 6(38%) I see.7(44%) Oh, really? 3(19%)

That's great. 2(13%) Well,...1(6%) Good job. 1(6%)

Please tell me more. 3(19%)

①あいづち

②相手に聞き返す

③2文で言う

④話題を発展させる質問

How about you ? 16ペア(100%)達成はスゴイ!!

15ペア(94%)達成は素晴らしい!

Why do you like mountain ? 1

Where is your house ? 1

Where do you clean ? 1

When you come home ? 1

Have you ever been to their concert ? 1

What do you usually buy ? 1
 What food do you like for breakfast ? 1
 What music do you listen to ? 1
 What instrument do you like the best ? 1
 What kind of ice cream do you like ? 1
 What kind of things do you buy ? 1
 What song do you like the best ?
 What do you do next when you come home ? 1
 What song of B'z do you like the best ? 1
 What's your dream ? 1

◇対話がうまく続いた例(No.1)

(Sくん&Oくんの例)

☆質問: What is your favorite place ?

☆対話

A: What is your favorite place ?
 B: It's my house.
 A: Oh, really ? I don't like my house. I like mountains.
 B: That's great.
 A: Thank you.
 B: But why do you like mountains ?
 A: Because it's fun to climb them.
 B: But my house is good, too. Because I feel calm.
 A: Where is your house ?
 B: In Fukiya. Near the Beisia.
 A: Oh, that's great.
 B: How about you ?
 A: In Nakago. Near the Ohnoya.
 B: That's great.
 A: Thank you.

☆次の目標:(上手に会話のできたSくん&Oくんが、さらにバージョンアップするためには、どうすればいい?)

①

②

対話を続ける工夫レポートNo. 3(裏)(3年2組バージョン)

Grade 3 Class No. Name

◇対話がうまく続いた例(No.2) (Sさん&Nさんの例)

☆質問: Who is your favorite singer ?

☆対話

A: Hello.
B: Hello.
A: Who is your favorite singer ?
B: I like Greeeen. How about you ?
A: I like EXILE and Tohoshinki and Greeeen. Because their songs are good.
Have you ever been to their concert ?
A: No, I haven't. How about you ?
B: No, I haven't.
A: What instrument do you like the best ? *instrument: 楽器
B: I like piano. How about you ?
A: I like guitar.
B: I see.

☆次の目標:(上手に会話ができるSさん&Nさんが、さらにバージョンアップするためには、どうすればいい?)

①

②

◇対話がうまく続いた例(No.3) (Mくん&Gさんの例)

☆質問: Are you going to study social studies tonight ?

☆対話

A: Are you going to study social studies tonight ?
B: Yes, I am. How about you ?
A: No, I am not. Do you like social studies ?
B: No, I don't. Because it is difficult. How about you ?
A: I like it. Because I want to be a social studies teacher.
B: I see.
A: What's your dream ?
B: I want to be a nursery school teacher.
A: I see. That's great.
B: Do you like little boys and girls ?
A: Yes, I do. But it is not easy to teach.
B: I see.

☆次の目標:(上手に会話ができるSさん&Nさんが、さらにバージョンアップするためには、どうすればいい?)

①

②

☆次に目指すべき目標は…。

- ① 2文以上で答える事に関しては、次に、自分のことについて詳しい情報を足していけるとよいと思います。
- ② 話題をすぐ変えずに、一つ的话题を発展させていくためにはChunk³(5W1H等)の表現を覚えて、様々な角度から質問していきけるようにしましょう。
- ③ 会話中に言いたいことが英語で分からないときは、日本語でその部分だけ言っても構わないので、会話をどんどんつなげていこう。また、相手が自分の質問に困っていたら、答え方の例を相手に示してあげると話を続けやすくなります。
- ④ 会話の最初にはあいさつ、それから「質問してもいいですか?」と聞いてみよう。また会話の最後には「話をしてくれてありがとう。」と感謝の気持ちを述べましょう。

対話を続ける工夫レポートNo. 4

Grade 3 Class No. Name _____

○自分たちで対話の内容を振り返ってみよう。

※評価は○ or ×で記入する。○:使えた、×:使えなかった

		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
No.	対話を続ける10個のコツ	/	/	/	/	/	/	/
①	アイ・コンタクト&スマイル							
②	相づち・つなぎ言葉(How about you?等)							
③	2文以上で答える(Chunkの活用)							
④	質問する(疑問詞5W1H)							
⑤	主語を変える							
⑥	逆の話題に変える							
⑦	時制を変える							
⑧	動詞を替える(P.							
⑨	繰り返して確かめる(オウム返し)							
⑩	聞き返し(Pardon me ?)							

No.	Small talk の設定時間	Small talkが 最後まで継続 できたか?	最初の話題(日本語で)	最後の話題(日本語で)
①	分 秒	○ or △		
②	分 秒	○ or △		
③	分 秒	○ or △		
④	分 秒	○ or △		
⑤	分 秒	○ or △		
⑥	分 秒	○ or △		
⑦	分 秒	○ or △		
⑧	分 秒	○ or △		
⑨	分 秒	○ or △		
⑩	分 秒	○ or △		

対話を継続・発展させる工夫レポートNo. 1

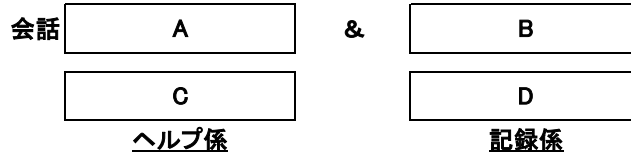
Grade 3 Class No. Name

◇目標 単純に2分間「会話を持続させること」から「話の内容の充実をはかること」に視点を変えよう。

○具体的な目標

- ・2文以上で答える。(説明や感想、または相手が興味を持ちそうな話題を付け加える。)
- ・質問をする(質問した相手が困っていたら、自分のことを先に例に出して紹介し、[How about you ?]で尋ねたり、関連した質問をして助けてあげる。
- ・他のペアがする会話を客観的に聞きながら、沈黙が生じたら、次にどのように会話を続けたらよいか日本語でアドバイスをだしてあげる。

※4人組で会話をを行い、2人の会話に対して1人のヘルプ役、一人の記録役を設ける。



☆記録係になった時に、実際に話された会話を記録して下さい。

対話した人 A: _____ B: _____ ヘルプ係 _____ 記録係 _____

☆ヘルプ係を体験してみて気付いたこと(自由記述) ※自分がヘルプ係をしたときに感じたことをここに記入して下さい。

- 4回分のQuestion(全員同じ題目で実施)
- Q1: What food do you like the best ?
 - Q2: What sport do you like the best ?
 - Q3: What season do you like the best ?
 - Q4: What will you do this weekend ?

対話を継続・発展させる工夫レポートNo. 2(表)

Grade 3 Class No. Name _____

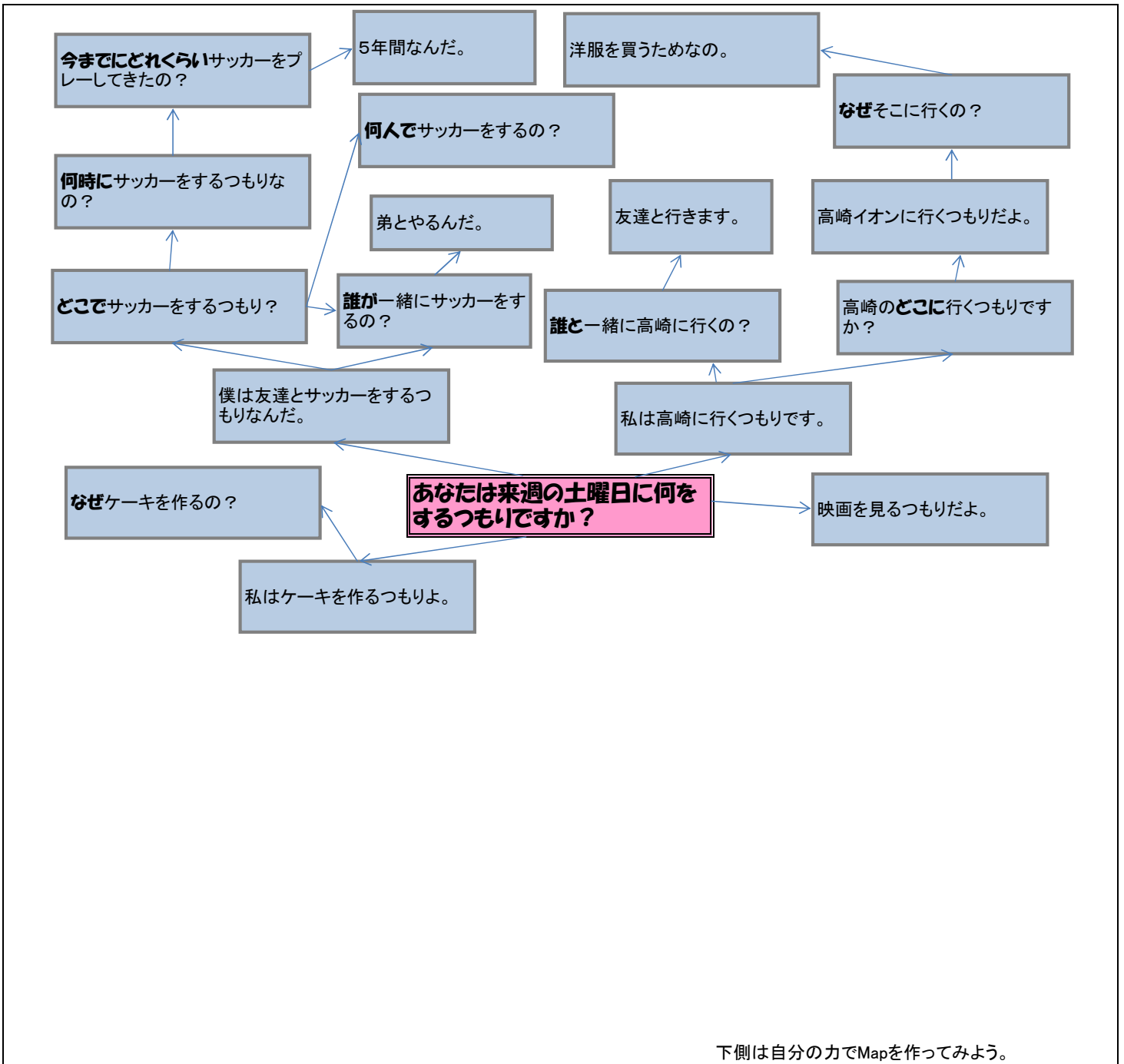
◇目標 会話の内容を充実・発展させるために、Web Mapを使って質問のつなぎ方を考えよう。

○具体的な目標

- ・相手に5W1Hなどを使った質問をすることで、多くの情報を引き出す。(事実や感想を聞き出して、次に質問できそうなことをさらに考える。)
- ・質問ばかりせず、必ず自分の情報や感想も相手に伝える。(質問した相手が困っていたら、自分のことを先に例に出して紹介し、[How about you ?]で尋ねたり、関連した質問をして助けてあげよう。)

◎Web Mapを作って考えてみよう。(自分がHelp係になったつもりでtry !)

※How to make this Web Map! 答えと質問文を日本語で考えてマップを作っていこう。



下側は自分の力でMapを作ってみよう。

対話を継続・発展させる工夫レポートNo. 2(裏)

Grade 3

Class

No.

Name

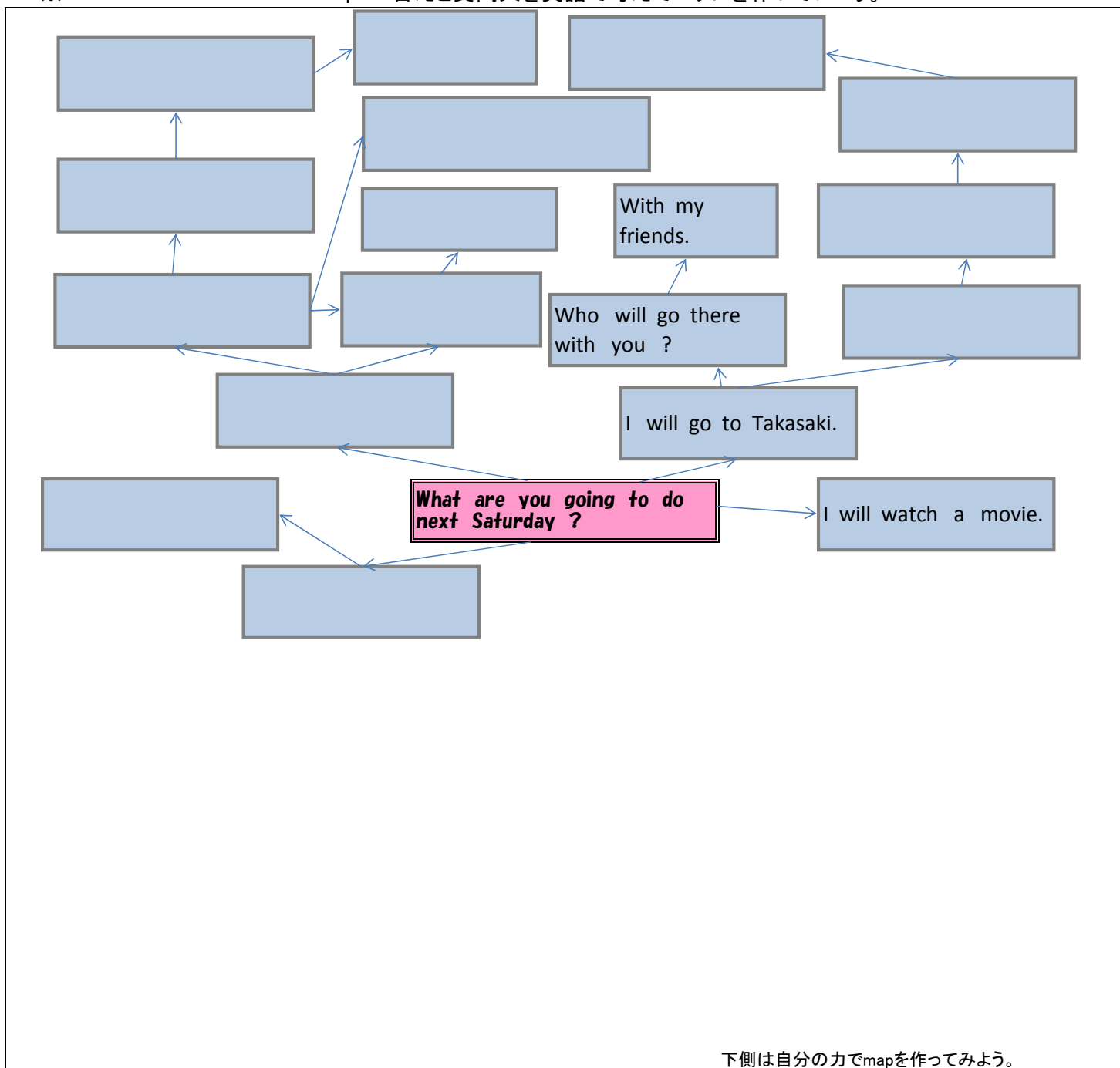
◇目標 会話の内容を充実・発展させるために、Web Mapを使って質問のつなぎ方を考えよう。

○具体的な目標

- ・相手に5W1Hなどを使った質問をすることで、多くの情報を引き出す。(事実や感想を聞き出して、次に質問できそうなことをさらに考える。)
- ・質問ばかりせず、必ず自分の情報や感想も相手に伝える。(質問した相手が困っていたら、自分のことを先に例に出して紹介し、[How about you ?]で尋ねたり、関連した質問をして助けてあげよう。)

◎Web Mapを作って考えてみよう。(英語バージョンを作ってみよう！)

※How to make this Web Map! 答えと質問文を英語で考えてマップを作っていこう。



下側は自分の力でmapを作ってみよう。

Let's challenge 2 minutes chat !

Grade 3 Class No. Name

◇目標 単純に2（3）分間「会話を持続させること」から「話の内容の充実を図ること」に視点を変えよう。

○自分たちで対話の内容を振り返ってみよう。

※評価は○ or ×で記入する。○:使えた、×:使えなかった

		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目
No.	対話を続けるコツ	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
①	アイ・コンタクト&スマイル										
②	相づち・つなぎ言葉(How about you?等)										
③	2文以上で答える(Chunkの活用)										
④	質問する(疑問詞5W1H)										
⑤	主語を変える										
⑥	逆の話題に変える										
⑦	時制を変える										
⑧	動詞を替える										
⑨	繰り返して確かめる(オウム返し)										
⑩	聞き返し(Pardon me?)										

No.	Small talk の設定時間	Small talkが 最後まで継続 できたか?	パートナー名	最初の話題(In English)	最後の話題(日本語で)
①	分 秒	○ or △			
②	分 秒	○ or △			
③	分 秒	○ or △			
④	分 秒	○ or △			
⑤	分 秒	○ or △			
⑥	分 秒	○ or △			
⑦	分 秒	○ or △			
⑧	分 秒	○ or △			
⑨	分 秒	○ or △			
⑩	分 秒	○ or △			

☆Let's challenge 2(3) minutes chat! をやってみて感じたこと & これからの課題

感じたこと	
課題	

英語科学習指導案

平成21年10月29日(木) 第2校時 3年2組(34名)

第3校時 3年3組(33名)

指導者 金子 芳之 ALT Helen Auer

授業の視点

Chunk³を利用してinput活動することは、2 minutes Chat活動で友達と対話ができるようになるために有効な指導法であったか。

1 題材名 Unit 4 An American Rakugo-ka

(NEW HORIZON 3 東京書籍)

2 指導の計画(27時間予定(事前調査を含む)、本時はその9時間目と11時間目)

3年生のChat(目標3分間)指導計画 & 実践

指導の流れ	時期	回数	配当時間	学習内容	活用場面 & 活用方法	使用ワークシート	研究授業
実態調査 & 事前調査 1	7月下旬	1	1時間	☆自分の発話能力の実態に気付く。	・生徒と教師が1対1で1分間のスピーキングテストを行い、ビデオ撮影(1回目)をする。 ・アンケートでの自己評価をさせる。	アンケート用紙 「Chunk ³ 導入編」	
実態調査 & 事前調査 2	9月下旬	1	1時間	☆自分の課題を自覚する。	・生徒同士によるペアを作り、1分間チャットを行い、ビデオ撮影(2回目)をする。 ・事前調査1の結果と1分間チャットを実践してから、自己評価として「課題発見レポート」をまとめる。 → 教師がよい会話例を「対話を続ける工夫レポートNo.1」としてまとめる。	課題発見レポート 「Chunk ³ No.1」	
1	9月下旬～10月上旬	5	第1時～第5時 各30分	☆会話を継続させる方法を見つける。 ① 相づちを使う。 ② 2文以上で答える。 ③ 質問をする。 ④ 疑問詞を使って話題を広げる。 ⑤ 対話を原稿に書き起こす。 ☆「Chunk ³ No.2」を使って語彙力をupするためのinput活動を継続的に行う。	・「対話を続ける工夫レポートNo.1」から会話を続ける方法を見つけさせる。(4クラス分で実践) ・見つけた方法を用いて「対話を続ける工夫レポートNo.1」を使いながら会話練習させる。(2分間程度) ・第5時で、行った会話を「対話を続ける工夫レポートNo.2」書き起こさせる。 → 教師がよい会話例を抜粋して「対話を続ける工夫レポートNo.3」にまとめる。	「対話を続ける工夫レポートNo.1」(クラス別に作成) 「対話を続ける工夫レポートNo.2」 Chatカード(「中2で楽しく会話がつづく2分間チャット」指導の基礎・基本」より抜粋) 「Chunk ³ No.2」	
2	10月中旬	4	第6時～第9時(各30分)	☆対話を続ける工夫を毎時間少しずつ見つけ、10個のキーワードにまとめる。 ① 2文以上で答える。 ② 関連質問をする。 ☆Chunk ³ を使って語彙力upのinput活動を継続的に行う。	・⑥「対話を続ける工夫レポートNo.4」の分析結果を見て、次の目標を立てさせる。 ・⑦「対話を続ける工夫レポートNo.3」で、会話をただ続けるだけではなく、話題を発展させる方法を見つけさせたり、見つけた方法を使うように意識させる。 ・見つけた方法を用いてChatカードを活用して会話練習させ、⑦を使って自己評価もさせる。 ・⑦の対話を続ける工夫レポートNo.3の6つの空欄部分に当てはまるキーワードを教科書のモデル対話やJTEとALTのモデル対話から見つけさせる。	Chatカード 「対話を続ける工夫レポートNo.3」 「対話を続ける工夫レポートNo.4」 「Chunk ³ No.3」	第9時 3年2組 (本時)
3	10月下旬	4	第10時～第13時(各30分)	☆会話を発展させる方法を客観的に学ぶ。「対話をうまく続ける10個のコツ」を実際に使えているか考える。	・4人1組になり、ペアの会話を沈黙が空いたら「ヘルプ係」が日本語で会話を続けるアドバイスを出す練習をさせる。全員が1回は「ヘルプ係」の練習ができるようにする。 ・これまで生徒が見つめてきた「対話をうまく続ける10個のコツ」を使っているか考えさせ、ヘルプ係の役割から対話を続けるヒントを感じ取らせる。	「対話を継続・発展させる工夫レポートNo.1」	第11時 3年3組 (本時)
4	11月上旬～	1	第14時(25分)	☆Web Mapを活用しながら会話を発展させる方向性を見極め、自分一人でヘルプ係の役割をする。	・Web Mapを活用して質問や応答の流れを考えながら、会話を発展させるための質問のつなぎ方を自分一人で考える。 ・最初は日本語でWeb Mapを活用して考えさせ、その後日本語→英語に変換する作業の中でどんな表現が必要になるのか考えさせる。	「対話を継続・発展させる工夫レポートNo.2」	
5	11月上旬～中旬	8	以後、毎時間始めの10分間で実施(8時間程度)	☆「Chunk Chunk Chunk」で覚えた表現を使って、「Let's challenge 2 minutes Chat」(最終目標3分間)を行う。	・「Let's challenge 2 minutes Chat」を使いながら、毎時間。違うパートナーと違う話題で会話を2分～3分間続けさせる。(回を重ねる毎にチャット時間を10秒ずつ増やしていく。)	「Let's challenge 2 minutes Chat」 Chatカード 「Chunk ³ No.4」	
6	11月下旬	2	2時間	☆自分の英会話力がどれだけ伸びたか、その成果を調べる。	・2回目にビデオ撮影した生徒同士で、2分間チャットを行い、ビデオ撮影(3回目)をする。 ・事前調査で使用したアンケート用紙を使って事後アンケートを行う。 → アンケート結果から成果と課題を分析し、今後の継続指導に役立てる。	アンケート用紙 (事前・事後とも同じ調査用紙を使用する)	

3 指導（支援）の方針 ※◎は本時の授業の視点と関わる方針

- Chunk³では生徒が取り組む2 minutes chat や自己表現活動を行う時に必要となる「つなぎ言葉」の表現を最初に取り上げてinput させていくようにする。
- ◎第2段階の Chunk³ では、対話を発展させるために必要な5W1Hを使った疑問文の表現を多く取り上げてinput させていくようにする。
- ◎2 minutes chat を実施するときに、生徒の会話能力や意欲に応じて易→難へと自分で選択できるように色分けした Chat カードを用意する。基礎レベル→ピンク、応用レベル→イエロー、発展レベル→ブルーとする。
- 生徒が授業に積極的に参加できるようにネームプレート（観点別評価カード）を活用する。授業中の発言、言語活動等に積極的に参加している生徒、頑張りの見られる生徒に対してネームプレートにスタンプを押し、生徒の意欲を引き出していく。
- 生徒が間違っただけの解答をしたとしても全てを否定せず、発言したことの勇気を認めていく。
- ◎JTE と ALT が見せるモデル対話の中から「対話を続ける10個のコツ」のNo.8～No.10の3つのコツを考えさせる場面で、生徒自ら3つのコツに気付くように徐々に強調してモデル対話を見せる。

4 評価規準

A: 【おおむね満足できる】、 B: 【十分満足できる】

○「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」

A: 2 minutes Chat活動中に間違いを恐れず英語で2分間会話を続けることができる。

B: 2 minutes Chat活動中に間違いを恐れず英語で1分30秒以上会話を続けることができる。

○「表現の能力」

A: 2 minutes Chatにおいて、Chunk³で学習したつなぎ言葉の表現を3つ以上使うことができる。

B: 2 minutes Chatにおいて、Chunk³で学習したつなぎ言葉の表現を1～2つ使うことができる。

○「理解の能力」

A: Chunk³で学習する表現を18個以上覚えている。

B: Chunk³で学習する表現を15個以上覚えている。

○「言語や文化についての知識・理解」

A: ALTにインタビューして得られた日米のジェスチャーの違いを理解し、日本語で分かりやすく紹介ができる。

B: ALTにインタビューして得られた日米のジェスチャーの違いを理解し、日本語で紹介しようとしている。

5 校内研修との関わり

今年度、本校の校内研修テーマの主題は「自ら学ぶ意欲をもち、確かな学力を身に付ける生徒の育成」であり、副主題が「～教科における思考力・表現力を高める授業づくりをとおして～」となっている。

今年度当初に実施されたNRTの結果から考察すると、現3年生については「質問や依頼に適切に応じること」「適切な表現を用いて書くこと」「強勢や区切りに注意して話すこと」が課題として挙げられる。平素の授業からは、一問一答で英会話が終わってしまったり、まとまりのある長さの英文を書く力が不足したりしている様子が見られる。これらの実態から英語科としての研究副主題を「自己表現力の向上を効果的に図るための教材の工夫」とした。

そこで自己表現力の向上を図るためには単発的な指導ではなく、継続的・恒常的な指導が必要になると考え、Chunk（意味のまとまり）を活用してinput（知識の導入）に焦点を当て、「Chunk Chunk Chunk」と名付けた教材を開発し毎日の授業の中に位置付けて研究を進めることにした。

6 本時の学習

(1) ねらい

○3年2組のねらい

JTEとALTが見せるモデル対話の中から「対話を続ける10個のコツ」のNo.8～No.10を生徒達に発見させると、2 minutes Chatの活動中にそれらの対話を続けるコツを意図的に使うことができるようになる。

○3年3組のねらい

4人組で会話・ヘルプ係・記録係と役割分担して対話練習する中で、ヘルプ係がペアの会話に沈黙が生じたら日本語で会話を続けるアドバイスをすると、対話を続けて発展させる方法に気付くことができるようになる。

(2) 準備

「教師」 Chunk³、ワークシート「Let's challenge 2 minutes chat!」

「生徒」 Chunk³、対話を続ける工夫レポートNo.3, 対話を継続・発展させる工夫レポートNo.1、教科書、Aノート、Bノート、ネームプレート、E-pilot、英和辞書、和英辞書

(3) 展開（第9時：3年2組）

学習活動	時間	支援及び指導上の留意点		評価項目
		JTE	ALT	
①英語で挨拶をする。	7分	○挨拶をする。	○挨拶をする。	

<p>②Chunk³の表現をinputできたか友達とペアを作って、1分間ずつ互いに確認する。</p>		<p>○JTEがタイマーで1分間計測する。生徒AはChunk³の日本語を見ながら英語で表現させる。生徒BはAの発言が正しいかチェックするよう指示する。</p>	<p>○生徒達でペアが作れない場合はALTがパートナーとして参加する。 ○余った生徒がいない場合は生徒の様子を観察し、サポートする。</p>	<p>○Chunk³の表現を理解し覚えられたか。 【理解】</p>
<p>③JTEとALTのモデル対話の中から3つ隠されている「対話を続けるコツ」を見付ける。</p>	<p>23分</p>	<p>○モデル対話を見ても生徒が隠されたコツに気付かないときは、その部分を強調して再度モデル対話を実演する。 ○生徒同士は相談してもよいと指示を与え、自由に答えさせる。 3つの解答 No. 8動詞を替える No. 9繰り返して確かめる No. 10聞き返し</p>	<p>○生徒が発表したことに対してポイントを与える。</p>	
<p>④自分で選んだChatカードを使って2 minutes chatを友達とする。</p>		<p>○事前に机の上に難易度別（難易度別に色別したもの）に並べたカードを生徒に選ばせ、選んだカードに記載されたQuestionから一つ選び、会話をスタートさせる。 ○2 minutes chatは立たせたまま行わせる。 ○会話が4秒以上途切れたペアは着席させ、さらに会話を継続させる。</p>	<p>○パートナーがいない生徒がいた場合はその生徒の相手を務める。 ○会話が途切れそうなペアには、会話を続けるヒントを与える。</p>	<p>◎Chunk³の表現を使ってChatが続けられているか。 【表現】</p>
<p>⑤自分たちの対話をワークシートを使って振り返る。</p>		<p>○2 minutes chatで目標の2分間会話が継続できた生徒にJTEとALTで手分けして、ネームプレート（英語活動評価用紙）にスタンプを1つ押す。</p>		

		○会話終了後、Chunk ³ で学習した表現を何個使えたか自己評価をさせ、振り返った結果を、クラス全体にフィードバックする。	
⑥ALTに質問して調べた日米のジェスチャーの相違をクラスに発表し、日米のジェスチャーの違いを知る。	20分	○日米のジェスチャーの違いを調べた時は英語でALTに質問しているので、クラスに発表するときは日本語で行わせる。	○発表された内容に関して、各班毎にどう感じたり、どう思ったのか、英語で質問する。

(3) 展開 (第11時：3年3組)

学習活動	時間	支援及び指導上の留意点		評価項目
		JTE	ALT	
①英語で挨拶をする。	7分	○挨拶をする。	○挨拶をする。	
②Chunk ³ の表現をinputできたか友達とペアを作って、1分間ずつ互いに確認する。		○JTEがタイマーで1分間計測する。生徒AにChunk ³ の日本語を見ながら英語の表現を言わせる。生徒BにAの発言が正しいかチェックするよう指示する。	○生徒達でペアが作れない場合はALTがパートナーとして参加する。 ○余った生徒がいない場合は生徒の様子を観察し、サポートする。	○Chunk ³ の表現を理解し覚えられたか。 【理解】
③3～4人組のグループに分かれて、会話、ヘルプ係、記録係を確認し、2 minutes chatを行う。	10分	○話題は全員同じものを使用する。 Q: What sport do you like the best ?	○人数が足りないグループには混ざって記録係の仕事をしてもらう。	

		<ul style="list-style-type: none"> ○記録係が原稿の書き起こしを行う際に、ヘルプ係のアドバイスを必ず記録するよう事前に指示しておく。 ○記録係の仕事が大変なので、会話を4分で行うことを伝え、会話係にはゆっくり会話するよう指示する。 		
④会話終了後、それぞれの係毎に振り返りの作業を行う。	15分	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめの時間を与えた後、各班のヘルプ係に会話を発展させるよい方法に気付いたか、発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表してくれた人には評価ポイントを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎Chunk³の表現を使ってChatを続けられているか 【表現】
⑥Unit4” An American Rakugo-kaのDialogの音読をし、内容を読みとる。	18分	<ul style="list-style-type: none"> ○既習済みの文法表現の確認をし、タイムプレッシャーを与えながら、音読活動を行う。 ○隣同士でペアを組ませ、なるべく暗記させる。 ○残り時間を見ながら、数ペア発表させる。 ○内容確認はワークシートで次時までの宿題と指示し、次時の始めに内容確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTのモデルリーディングの後リピートさせる。 ○欠席者の穴埋めが必要な場合はALTが行う。 	

<Enjoy English> Step 13

Unit5-1

～「もし～ならば…」と条件を表す言い方を学習しよう～

A: Let's go fishing if it's sunny tomorrow.

(もし明日晴れたら、魚釣りにいこうよ。)

B: Sounds great! (いいねえ!)

If it's rainy tomorrow, what shall we do?

(もし明日雨が降っちゃったら、どうする?)

A: Let's study English!

B: No kidding? (冗談だろ!?)

① if は「もし～なら…」の意味で、文と文をつなぐ働きをします。**ifのあとは<主語+動詞>の語順**になります。

② <if ~>の部分は文の前半、後半のどちらにもきます。前半にくるときは、ふつう<if ~>のあとにカンマを付けます。

If it's sunny tomorrow, I'll play tennis. = I'll play tennis if it's sunny tomorrow.

(もし明日晴ればテニスを行います。)

<if~>の部分の動詞は、
未来のことでも現在形で
表すんだよ!



練習問題 (BASIC)

(1) (2) は日本語に合う英文になるように { } の語を並べかえよ。(3) は 2 つの文を if で始まる 1 つの文に書きかえよ。(4) は文脈を考えて (ア) (イ) のどちらかに if または ,if を補い、完成した文を和訳せよ。

(1) {home/ tomorrow/ at/ rainy/ it's/ will/ I/ if/ stay} もし明日雨なら、私は家にいるつもりです。

(2) {tomorrow/ to the park/ sunny/ it's/ we'll/ if/ go} もし明日晴れば、私たちは公園へ行くつもりです。

(3) You want to become a medalist. Practice hard every day.

medalist …メダリスト

(4) (ア _____) you can come to my house (イ _____) I will show you my new bike.

練習問題 (ADVANCED)

(1) (2)は和訳せよ。(3)は日本語に合うように並べ替えよ。

(1) If you are free, you can watch TV.

(2) If you finish your homework, you can play tennis.

(3) {give/ meet/ him/ Mike / letter/ please/ to/ you/ this/ if}

もしマイクに会うなら、この手紙を彼に渡してください。

復習の手引き

A: Let's _____ ***if it's sunny tomorrow.***

(もし明日晴れたら、~しようよ。)

* 下線にはどんな表現が使えるだろうか

- ・ play を使って「何かスポーツをしよう」と誘ってみる
- ・ go ~ ing を使って「~に行こう」と誘ってみる (サイクリング、買い物等)

B: Sounds great! (いいねえ!)

If it's rainy tomorrow, what shall we do?

(もし明日雨が降っちゃったら、どうする?)

A: Let's _____ **!**

* 下線にはどんな表現が使えるだろうか

次の文は「冗談だろ!？」という応答なので、そんなのあり?的な表現を!

- ・ 「勉強しよう」 / 「川で泳ごう」 / 「自転車で高崎行こう」など

B: No kidding? (冗談だろ!?)

復習の課題と評価

- 1、表面のスキットをそのまま書き取り：**A**
- 2、裏面の手引きを参考にしてオリジナルのスキットを作成：**A⁺ (ﾌﾟﾗｽ)**
- 3、2の内容に加え、会話文に更に英文を追加し対話を発展させることができた：**A⁺⁺ (ﾀﾞﾌﾙﾌﾟﾗｽ)**

(1) もしヒマなら、テレビを見てもいいよ。

(2) もし宿題が終わったら、テニスをしてもいいよ。

(3) If you meet Mike, please give this letter to him

What will you do if you have 10,000 yen?

1万円あったら何をする？

・・・+ if ~ = もしならば・・・

A: What will you do if you have 10,000 (ten thousand) yen?
 B: I will _____ if I have 10,000 yen.

答えを聞いて更に詳しくたくさん質問しよう。例えば・・・

B: I will go to AEON if I have 10,000 Yen.

A: When will you go there? 「いつ？」

B: On Sunday.

A: Oh, can I go with you? 「～してもいい？」

B: Sure.

A: What will you buy? 「何を？」

B: I will buy UMAIBOUs.

A: I see. How many UMAIBOUs will you buy? 「いくつ？」

B: I will buy 1,000 UMAIBOUs.

A: 1,000 !? Do you like UMAIBOUs? 「～好き？」

B: Yes, I do.

A: Me, too! Where will you eat them? 「どこで？」

B: I will eat them in my room.



話した友達の名前と、尋ねた質問の数を記録しよう

Aさん・・・7

Speaking Points

☆ SELF-EVALUATION 次のようなことに気を付けながらできたかどうか自己評価してみよう。

1. アイコンタクトを意識して会話できたか・・・A B C D
2. 積極的に会話しようとしたか・・・A B C D
3. イントネーションや発音に気を付けて言えたか・A B C D
4. No Japanese (英語だけを話せたか)・・・A B C D

総合評価

A—よくできた B—まあまあできた C—できるときもあった D—あまりできなかった

<Enjoy English> Step 14

Unit5-2

～「～と思う」という表現を学習しよう～

A: You have natto for your lunch. (昼ご飯は納豆だね！)

B: Yes. I love natto very much. (ああ、オレ納豆大好きなんだよ。)

I think (that) it is very good.

(私は)、それはとてもうまいと思うよ。)

What do you think? (君はどうだい。)

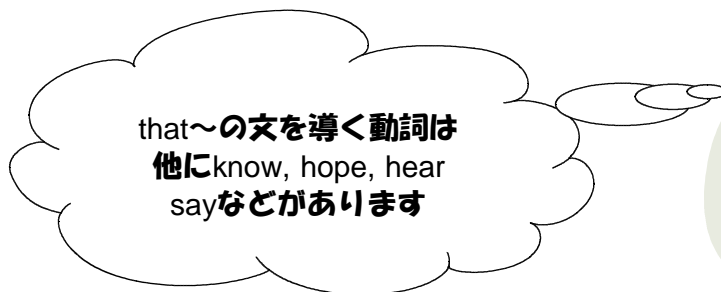
A: I think so./I don't think so.

(そう思うよ。/そうは思わないよ。)

- ① that は文と文をつなぐ働きをするときもある。そのとき that 以下の（主語・動詞を含む）文のかたまりを「～ということ」と訳することができる。

thatのあとは<主語+動詞>の語順になります。

- ②この that は**省略される**ことが多い。



練習問題 (BASIC)

(1) (2) (3) は日本語に合う英文になるように { } の語を並べかえよ。(4) は和訳せよ。

(1) {that/ Kumi/ loves/ think/ Ken/ I } ケンはクミが好きなんだと思います。

(2) {good/ my mother/ for children/ comics/ think/ that/ are/ doesn't }

ボクの母さんはマンガは子どもによいとは思ってません。

(3) {piano/ she/ play/ Ken/ the/ can/ knows/ that} 彼女はケンがピアノを弾けることを知っています。

(4) Do you know that Ichiro is very famous in America?

練習問題 (ADVANCED)

(1)は適切な表現となっている英文を選び○を付けよ。(2)(3)は和訳せよ。

(1) I don't think that he is kind. ()

I think that he is not kind. ()

(2) My mother always says that I must study hard.

(3) I hope that you will pass the entrance exam for high school. entrance exam 入試

復習の手引き

A: You have natto for your lunch.

(昼ご飯は 納豆 だね!)

B: Yes. I love natto very much.

(ああ、オレ 納豆 大好きなんだよ。)

I think (that) it is very good.

((私は)、それはとてもうまいと思うよ。)

What do you think? (君はどうだい。)

A: I think so. (ボクもそう思うよ。)

↓ + (プラス) した英文

Oh, is it natto sandwich? (おや、それ納豆サンドじゃない?)

Can I have a bite? (一口ちょうだい。)

B: Why not? (いいとも。)

復習の課題と評価

- 1、表面のスキットをそのまま書き取り：**A**
- 2、裏面の手引きを参考にしてオリジナルのスキットを作成：**A⁺ (ﾌﾟﾗｽ)**
- 3、2の内容に加え、会話文に更に英文を追加し対話を発展させることができた：**A⁺⁺ (ﾀﾞﾌﾙﾌﾟﾗｽ)**

(1) I don't think that he is kind. (○)

(2) ボクの母さんはいつも、ボクが一生懸命勉強しなければならない、と言います。

(3) あなたが高校入試に合格することを願っています。(合格するといいですね)

What do you think?

あなたは どう思う？

think (that) . . . = . . . だと思う



<p>A: I think (that) we need <u>soy source</u> for <u>fried eggs</u>.</p> <p>What do you think?</p> <p>B: I think so. / I don't think so.</p> <p>I think we need <u>ketchup</u>.</p>	<p>soy source source ketchup mayonnaise salt and pepper</p>
--	---

答えを聞いて更に詳しくたくさん質問しよう。例えば...

A: Do you like fried eggs? 「～は好き？」

B: Yes, I do.

A: Me, too. What is your favorite breakfast? 「あなたの好きな～は？」

B: I like toast and fried eggs.

A: Really? I like rice. Did you eat egg today? 「～した？」

B: Yes, I did. I eat eggs for breakfast every day.

A: Every day? Wow! How many eggs do you have in a week? 「いくつ～？」

B: I have 14.

A: Oh 14!? Where do you buy eggs? 「どこで～？」

B: At Raran Fujioka.

A: Can I go there with you? 「～してもいい？」

B: Why not?

話した友達の名前と、尋ねた質問の数を記録しよう

Aさん...7

Speaking Points

☆ **SELF-EVALUATION** 次のようなことに気を付けながらできたかどうか自己評価してみよう。

1. アイコンタクトを意識して会話できたか・・・A B C D
2. 積極的に会話しようとしたか・・・・・・・・・・A B C D
3. イントネーションや発音に気を付けて言えたか・A B C D
4. No Japanese (英語だけを話せたか)・・・A B C D

総合評価

A—よくできた B—まあまあできた C—できるときもあった D—あまりできなかった

<Enjoy English> Step 15

Unit5-3

～「～の時・・・」と2つの文を結ぶ言い方を学習しよう～

A: Do you have any plans for this weekend?

(この週末は何か予定があるの?)

B: No, I don't. (いいや、ないよ。)

What do you usually do when you have time?

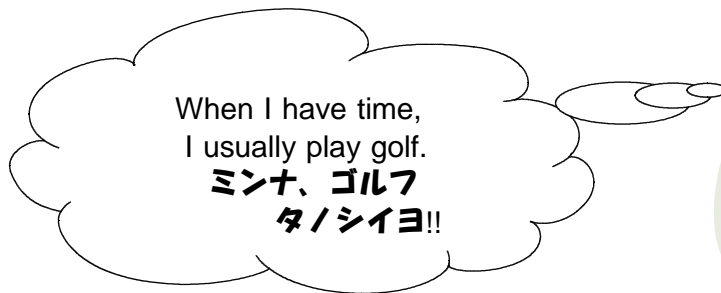
(時間がある時は、たいてい何をするの?)

A: I (usually) read comics.

(マンガを読むよ。)

① when は「～するとき」の意味で文と文をつなぐ働きをする。when のあとは <主語+動詞>の語順になる。

② < when~>は文の前半にくることも、後半にあることもできる。前半にくるときはふつう、whenのあとにカンマをつける。



練習問題 (BASIC)

(1) (2)は日本語に合う英文になるように { } の語を並べかえよ。(3)は和訳せよ。

(1) {have/ English/ I/ I/ time/ study/ when } ボクは時間があるときは英語を勉強するよ。

I

(2) {he/ time/ TV/ when/ has/ watches/ Tom/ usually}

トムは時間があるときは、(彼は) たいていはテレビを見ます。

When

(3) I often went fishing with my brother when I was young. young・・・幼い

練習問題 (ADVANCED) : 和訳せよ。

(1) Come when I call you. (命令文です)

(2) When I arrived at New York, it was raining.

(3) When I was in Australia, I saw many kangaroos.

復習の手引き

A: Do you have any plans for this weekend?

(この週末は何か予定があるの?)

B: No, I don't. (いいや、ないよ。)

What do you usually do when you have time?

(ヒマな時は、たいてい何をするの?)

A: I (usually) listen to music.

(音楽を聞くよ。)

応用 (相手の答えについてもっと詳しく聞いてみよう : プラス 1 or プラス 2)

↓

プラス 1

B: What's your favorite music? (どんな音楽が好きなの?)

A: I like Japanese ENKA. (日本の演歌だよ。)

プラス 2

B: Who's your favorite singer? (好きな歌手は?)

A: I like Jero. (ジェロが好きさ。)

~~~~~  
**音楽で話題を膨らませるには?** どんな音楽が好き? / 好きな歌手は? / CD何枚持ってる? / そのCDどこで買ったの? / 毎日聞く? / 昨日聞いた? / 今夜聞く? / (他のジャンル・歌手を具体的に挙げて) ~も好き? など  
~~~~~

復習の課題と評価

1、表面のスキットをそのまま書き取り : A

2、裏面の手引きを参考にしてオリジナルのスキットを作成 : A⁺ (ﾌﾟﾗｽ)

3、2の内容に加え、会話文に更に英文を追加し対話を発展させることができた : A⁺⁺ (ﾀﾌﾞﾙﾌﾟﾗｽ)

(1) 呼んだらすぐ来なさい。

(2) 私がニューヨークに着いたとき、雨が降っていました。

(3) 私はオーストラリアにいたときに、たくさんカンガルーを見かけました。

What did you do when...?

小さいころ何したの？



when~(～するとき)を使って聞いてみよう!

A: What did you do when you were young?

B: I (often) went fishing with my father.

How about you?

A: I played dodge ball with my friends.

子どもの遊びが分かるかな？

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> play(ed) hide and seek | <input type="checkbox"/> play(ed) cards |
| <input type="checkbox"/> play(ed) house | <input type="checkbox"/> play(ed) tag |
| <input type="checkbox"/> play(ed) cat's cradle | |

boys → boys , girls → girls	1p
boys → girls , girls → boys	2ps
students → teachers	3ps

Speaking points
Pts

下線の部分をオリジナルの文で会話できた人はさらにボーナス 5 points ↑↑↑

☆ SELF-EVALUATION 次のようなことに気を付けながらできたかどうか自己評価してみよう。

- アイコンタクトを意識して会話できたか・・・A B C D
- 積極的に会話しようとしたか・・・A B C D
- イントネーションや発音に気を付けて言えたか・A B C D
- No Japanese (英語だけを話せたか)・・・A B C D

総合評価

A—よくできた B—まあまあできた C—できるときもあった D—あまりできなかった

英語科学習指導案

平成21年11月12日(木) 第3校時
2年1組(教室) 指導者 五十嵐 豊T1
秋山みのりT2

授業改善の視点

新出文法事項(基本文)導入において、その使用場面を設定し、会話の方向や相手からの質問に対する応答を明確にイメージ化できるようにすることは、英語で聞き取った情報に正しく応答したり、その内容を更に深めるための質問をスムーズに発信したりすることに有効であったか。

1 題材名 Unit5 A Park or a Parking Area? (NEW HORIZON English Course 2 東京書籍)

2 考察

(1) 学習指導要領における位置

本題材は、中学校新学習指導要領、英語2、内容(1)言語活動 ア聞くこと(ウ)質問や依頼などを聞いて適切に応じること、イ話すこと (イ)自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること、(3)言語材料 エ文法事項 (ア)文 a 単文、重文及び複文のうちの複文に基づいて具体的に教材構成したものである。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒(2年1組 男子17名 女子19名 合計36名)の実態を把握するため、別紙のようなアンケートを行った。(アンケート実施時、男子1名、女子1名欠席)

<コミュニケーションへの関心・意欲・態度>

「英語を聞き取ったり、英語で自分の考えていることを伝え合ったりする活動に積極的に参加しているか」の問いに、「いつも積極的に参加している」(18人)、「積極的に参加することもある」(13人)と回答した生徒が全体の90%以上であり、コミュニケーション活動への意欲は比較的高い。「あまり積極的になれない」と回答した3人のうち、男子1人と女子1人については、英語に対する強い苦手意識があるので、T2からの支援を積極的に活用し、活動の内容ややり方をしっかりと理解させた上で実際の活動に取り組ませたい。

<表現の能力>

「英語で対話するとき、自分の言いたいことや伝えたいことが表現できるか」の問いには、「Yes/Noで答える疑問文とその答え」については25人の生徒が「言いたい表現できる」としており、簡単な意思表示で成立する対話を構成する力は概ね定着していると言える。一方「wh-を使った疑問文とその答え」について、「言いたい表現できる」と回答した生徒は14人にとどまっており、相手の考えを詳しく引き出したり、自分の考えを具体的に表現することを求められるような対話に苦手意識を感じている生徒が多いことが分かる。この14人のうち10人は「英語で対話する際、相手の質問が正しく聞き取れなかった時に適切な表現を使って対話を継続できるか」という問いに「言いたいできる」と回答しているので、対話をつなぐフレーズを使ってコミュニケーションを持続させ、「分かった」、「言えた」という達成感を味わえるところまで、粘り強く取り組ませたい。また、「英語で対話する際、気を付けていること」として、eye contact(アイコンタクト)と回答した生徒が23人おり、対話の得手不得手にかかわらず、ノンバーバル(non-verbal: 言語を用いない)な要素にも配慮しながら、より臨場感のある対話をしようとしている好ましい姿勢が見られるので、本課でのコミュニケーション活動の際もノンバーバルな要素をしっかりと意識させたい。

<理解の能力>

「基本文を単独で導入するのではなく、対話文の一部に組み入れて扱う方法が、基本文の意味を理解したり、文を覚えたり、使い方を理解したりすることに役立っているか」という問いにはほぼ全員の生徒(32人)が「役立っている」と回答している。その主な理由としては、基本文を使う場面がすぐ

に思い浮かぶ／会話の流れがイメージできる／使用場面が解るので応用しやすい、等が挙げられている。本課での学習におけるコミュニケーション活動の際も、基本文が使われる対話を容易にイメージすることができるよう、基本文導入時の場面設定を工夫したい。

<言語や文化についての知識・理解>

Unit3およびUnit4で扱った基本文について、「その使用場面を、どの程度具体的にイメージできるか」と質問した。

疑問詞を伴った疑問文：

①What are you going to～?(正答：17人、誤答13人、未回答4人)

②What did you do～?(正答：22人、誤答4人、未回答8名)

使用目的が限定されている命令文：

③You must not～.(正答23人、誤答9名、未回答2人)

については、比較的容易にその使用場面をイメージできている。①の主な誤答は進行形be going to～との文型上の混同から、③の誤答はdon't have to～との意味上の混同から、それぞれ生じている。したがって、基本文そのものの文型と意味をしっかりと定着させれば、場面に応じた使用は容易にできると思われる。

不定詞の副詞的用法を含む文：

④You went to the park to～.(正答9名、誤答16名、未回答9名)

は、その文型や意味は概ね理解している(正しく和訳できた生徒：21名)ものの、使用される場面(行動する理由を表現したい時)が具体的にイメージできていない。④のような不定詞句を伴う英文は、それ自体で十分な情報量をもつため、定着を図る際、目標文単独での練習になりがちである。本課で扱う複文もそれ自体が十分な情報量をもつので、目標文単独での十分な理解に加え、そうした文をどのような場面で使用するかを具体的に例示し、その使用場面がすぐにイメージできるような定着を図り、コミュニケーション活動で積極的に活用できるようにしたい。

<英語の活用について>

本学年では、基本文を含む対話文をノートに書き取り練習すると共に、その対話文を更に発展的に持続させていけるよう、オリジナルの表現を書き加えることを家庭学習での課題として与えている。この復習課題は「基本文の使い方を覚えたり、基本文を使ってコミュニケーション活動するときのイメージづくりに役立っているか」という問いには、29人の生徒が「役立っている」と回答している。その主な理由としては、場面をイメージしながら行うので基本文が覚えやすい／応用でプラスしたオリジナルの英文を添削してもらえるので、コミュニケーション活動の際、自信をもって自己表現できる、等が挙げられていた。使用場面を具体的に示した基本文の導入→ドリル練習→発展的練習→復習の学習サイクルで基本文の定着を効果的に図りたい。

(3)教材観

本題材では、ある事故をきっかけに、現在ある公園を駐車場に作り替えるという議論が起こる。

【P.50】由香の妹がけがをして入院する。由香から友だちのマイクに宛てたファックス。

【P.51】久美のけがの原因(＝自転車が倒れてきた)について、マイクと絵美が対話をしている。

「新しい駐輪場が必要だ。」

【P.52】事故後まもなく、「公園をつぶして駐輪場にする」という市の決定について伝える新聞記事。

【P.53】市の決定に対して反対の市民が、新聞に投書して意見を述べたもの。

自転車の駐輪のマナーについては本校でも見られる話題であり、生徒にとっては身近なテーマであると言える。近年、公共のマナーについての話題はよく耳にすることがあるので、このことについて考えさせるのにふさわしい題材である。

新出の言語材料としては、Starting Out で従属接続詞 if を、Reading for Communication で従属接続詞 when、because を含んだ文を学習する。また Dialog で従属接続詞 that に導かれる節が目的語になっている文を学習する。ここでは従属接続詞を中心に学習することで、より具体的に表現できる事柄が増えるとともに、実際の会話で多用する表現を習得できるので、事実を伝えたり意見を述べた

りできるようになると期待できる題材である。

3 目標

【関心・意欲・態度】

・場面設定に応じて構成された英文や基本文を含むスキットを参考にしながら、積極的にコミュニケーション活動に取り組むことができる。

【表現の能力】

・従属接続詞を含む文（if 節、that 節、when 節、because 節を含む文）を用いて自分の考えていることについて相手に伝えることができる。

【理解の能力】

・従属接続詞を含む文（if 節、that 節、when 節、because 節を含む文）を用いて表現された英文を理解できる。

【言語・文化についての知識・理解】

・従属接続詞を含む文（if 節、that 節、when 節、because 節を含む文）の構成を理解し、それを正しく用い英文にすることができる。

・新聞記事や投書を読んで内容を理解し、またそれを参考にして自分の意見を述べたりすることができる。

4. 評価規準

【関心・意欲・態度】

・場面設定に応じて構成された英文や基本文を含むスキットを参考にしながら、積極的にコミュニケーション活動に取り組むことができる。

(B) 従属接続詞を含む文（if 節、that 節、when 節、because 節を含む文）を用いて、コミュニケーション活動をしようとしている。

(A) 従属接続詞を含む文（if 節、that 節、when 節、because 節を含む文）を用いて、話題を深めようとしている。

【表現の能力】

・従属接続詞を含む文（if 節、that 節、when 節、because 節を含む文）を用いて自分の考えていることについて相手に伝えようとしている。

(B) 従属接続詞を含む文（if 節、that 節、when 節、because 節を含む文）を用いて自分の考えを簡潔に表現することができる。

(A) 従属接続詞を含む文（if 節、that 節、when 節、because 節を含む文）を用いて、自分の考えや表現を進んで相手に伝え、会話を続けようとしている

【理解の能力】

・従属接続詞を含む文（if 節、that 節、when 節、because 節を含む文）を用いて表現された英文を理解できる。

(B) 従属接続詞を含む文（if 節、that 節、when 節、because 節を含む文）を用いて表現された英文の意味を理解できる。

(A) 従属接続詞を含む文（if 節、that 節、when 節、because 節を含む文）を用いて表現された英文の内容を正しく理解できる。

【言語・文化についての知識・理解】

・従属接続詞を含む文（if 節、that 節、when 節、because 節を含む文）の構成を理解し、それを正しく用い英文にすることができる。

(B) 基本文を参考に自分のことを伝えることができる。

(A) 基本文を使用場面に応じて適切に用い、自分のことを伝えることができる。

・新聞記事や投書を読んで内容を理解し、またそれを参考にして自分の意見を述べたりすることができる。

(B) 新聞記事や投書を読んで内容をおおむね理解した上で、自分の意見や立場を明確にできる。

(A) 新聞記事や投書を読んで内容を理解し、またそれを参考にして自分の意見を相手に伝えることが

できる。

5. 指導方針

- ☆本校英語科の「活用力」を育成するための具体的な手だて
- A: 活用力の土台として必要な道具である単語力を単語テスト等で伸ばしていく。
 - B: 文法力を強化し、表現力の幅を広げるため、基本文の暗記に力を入れ、また、その覚えたものを使ってコミュニケーション活動等をさせる時間を設ける。
 - C: ある程度のまとまりのある文章の内容を理解できるようにするため、個人のレベルに応じてTrue or False (日本語・英語)や英問英答の質問をし、理解度を確認していく。
 - D: より自然な速さの英語を聞くことに慣れたり、英語の発音に近付けて単語や文を言えるようにするためにALTの効果的な活用場面を増やす。

◎予想される指導上の課題と指導方法

* 英語科の指導重点項目との関連

- ・言いたいことが的確に表現できるよう、単語のテストを毎時行い、段階的に語彙力を高められるようにする。(A)
- ・基本文の読み方や書き方を繰り返し練習できるよう、活動やワークシートの内容を工夫する。(B)
- ・新出文法事項の復習(Reading および Writing)においてワークシートによる活動やキーセンテンスの反復練習をさせ、個々の基礎基本を確実に定着させ、書いたり話したりする活動がスムーズに行えるようにする。(B)
- ・教科書の内容と読み方を的確に理解させるために、ワークシートを活用する。(C)

* 個に応じた指導との関連

- ・T1、T2の役割を明確にし、授業をテンポよく進め、生徒一人一人を授業に集中させるよう心がける。
- ・机間指導や活動の観察で一人ひとりの進捗・状況を把握し、課題に積極的に臨む生徒・目標達成できた生徒には称賛の言葉やさらなる課題を、消極的な生徒には励ましの言葉や答えに近いヒントを与えることで興味や意欲を喚起することに努める。
- ・指名の仕方を工夫して多くの生徒に発表の機会を与え、学習に興味をもたせるとともに、一人一人の学習の成立を図る。
- ・生徒一人一人の習熟度に応じて取り組めるよう、基礎的問題とともに発展的問題を用意し、生徒が学習の進行状況に応じて練習できるようワークシートを工夫する。
- ・学習意欲の低い生徒の、興味・関心を高めたり、大きな声で発表したりできる手だてとして、授業の中に学び合いの場面を取り入れ、グループやペアで協力しながら取り組めるようにする。
- ・授業では教え合い、励まし合いが積極的にできるような雰囲気づくりに努め、取り組みが消極的な生徒が少くらの間違いは気にせず自信をもって発表できるようにする。
- ・自己評価カード(NEW STEP CARD)を活用し、活動のめあてや達成状況を細かくチェックさせ、学習意欲の向上につなげるとともに、授業内の一つ一つ学習の成立を確実に図る。

6 指導・評価計画

配分	学習内容	指導上の留意点	評価項目
第1時	Starting Out P.50 if 節の導入 新出単語 内容理解の TF テスト 本文の音読	ーショートスキットに基本文を組み込んで提示し、その使用場面を意識して音読・書き取り練習が行えるようにする。 ー基本文のパターンプラクティスを十分に行う。 ー文法的指導は机間巡視の際再度個別に確認しながら行う。 ー内容の理解では日本語と英語の2種類の発問を用意し、個に応じ	B:if 節を含む文を使って積極的に表現しようとしている。 A:if 節を含む文を理解し積極的に正しく表現している。 (観察・ワークシート)

			た取り組みとなるよう配慮する。	
第2時	Starting Out P.50	前時の文法の復習・応用 新出単語の復習 本文の音読	<ul style="list-style-type: none"> －既習文法の復習としてコミュニケーション活動を行う際、基本文の使用場面を具体的にイメージさせ適切に用いることができるようにする。 －活動と一緒に参加しながら、活動が滞る生徒に手助けする。 －意味のまとまりを考えて音読練習ができるよう、チャンクリーディングを積極的に取り入れる。 	<p>B:積極的に活動に参加しようとしている。</p> <p>A:積極的に活動に参加し、正しく理解・表現している。</p> <p>(観察・ワークシート)</p>
第3時	Dialog P.51	that 節の導入 新出単語 内容理解 TF テスト 本文の音読	<ul style="list-style-type: none"> －ショートスキットに基本文を組み込んで提示し、その使用場面を意識して音読・書き取り練習が行えるようにする。 －基本文のパターンプラクティスを十分に行う。 －文法的指導は机間巡視の際再度個別に確認しながら行う。 －内容の理解では日本語と英語の2種類の発問を用意し、個に応じた取り組みとなるよう配慮する。 	<p>B:that 節を含む文を使って積極的に表現しようとしている。</p> <p>A:that 節を含む文を理解し積極的に正しく表現している。</p> <p>(観察・ワークシート)</p>
第4時	Dialog P.51	前時の文法の復習・応用 新出単語の復習 本文の音読	<ul style="list-style-type: none"> －既習文法の復習としてコミュニケーション活動を行う際、基本文の使用場面を具体的にイメージさせ適切に用いることができるようにする。 －活動と一緒に参加しながら、活動が滞る生徒に手助けする。 －意味のまとまりを考えて音読練習ができるよう、チャンクリーディングを積極的に取り入れる。 	<p>B:積極的に活動に参加しようとしている。</p> <p>A:積極的に活動に参加し、正しく理解・表現している。</p> <p>(観察・ワークシート)</p>
第5時 (本時)	Reading for Communication P.53	when 節の導入 新出単語 内容理解 TF テスト 本文の音読	<ul style="list-style-type: none"> －ショートスキットに基本文を組み込んで提示し、その使用場面を意識して音読・書き取り練習が行えるようにする。 －基本文のパターンプラクティスを十分に行う。 －文法的指導は机間巡視の際再度個別に確認しながら行う。 －内容の理解では日本語と英語の2種類の発問を用意し、個に応じた取り組みとなるよう配慮する。 	<p>B:when 節を含む文を使って積極的に表現しようとしている。</p> <p>A:when 節を含む文を理解し積極的に正しく表現している。</p> <p>(観察・ワークシート)</p>
第6時	Reading for Communication P.53	前時の文法の復習・応用 新出単語の復習 本文の音読	<ul style="list-style-type: none"> －既習文法の復習としてコミュニケーション活動を行う際、基本文の使用場面を具体的にイメージさせ適切に用いることができるようにする。 －活動と一緒に参加しながら、活動 	<p>B:積極的に活動に参加しようとしている。</p> <p>A:積極的に活動に参加し、正しく理解・表現している。</p> <p>(観察・ワークシート)</p>

			<p>が滞る生徒に手助けする。</p> <p>―意味のまとまりを考えて音読練習ができるよう、チャンクリーディングを積極的に取り入れる。</p>	
第7時	Reading for Communication P.54	because 節の導入 新出単語 内容理解 TF テスト 本文の音読	<p>―ショートスキットに基本文を組み込んで提示し、その使用場面を意識して音読・書き取り練習が行えるようにする。</p> <p>―基本文のパターンプラクティスを十分に行う。</p> <p>―文法的指導は机間巡視の際再度個別に確認しながら行う。</p> <p>―内容の理解では日本語と英語の2種類の発問を用意し、個に対応した取り組みとなるよう配慮する。</p>	<p>B:because 節を含む文を使って積極的に表現しようとしている。</p> <p>A:because 節を含む文を理解し積極的に正しく表現している。 (観察・ワークシート)</p>
第8時	Reading for Communication P.54	前時の文法の復習・応用 新出単語の復習 本文の音読	<p>―既習文法の復習としてコミュニケーション活動を行う際、基本文の使用場面を具体的にイメージさせ適切に用いることができるようにする。</p> <p>―活動と一緒に参加しながら、活動が滞る生徒に手助けする。</p> <p>―意味のまとまりを考えて音読練習ができるよう、チャンクリーディングを積極的に取り入れる。</p>	<p>B:積極的に活動に参加しようとしている。</p> <p>A:積極的に活動に参加し、正しく理解・表現している。 (観察・ワークシート)</p>
第9時	リスニングテスト ワークシート	リスニングテスト (Unit5) 文法事項の整理 (Let's Study English)	<p>―補充的な学習で基礎基本の徹底定着を図る。</p>	<p>B:本課の内容について英語の質問に答えられる。学習したことを理解し身に付けている。</p> <p>A:本課の内容について英語の質問に適切に答えられる。学習したことを十分に理解し身に付けている。 (リスニングテスト・ワークシート)</p>
第10時	ワークシート ワークブックの答え 合わせ 家庭学習状況のチェック 自己評価カードのまとめ	文法事項の整理 (Let's Study English) ワークブック 単語練習用Bノート NEW STEP CARD	<p>―補充的な学習で基礎基本の徹底定着を図る。</p> <p>―学習につまずきのある生徒をワークブック・家庭学習用ノート・自己評価カード等で把握し、個別に支援できるようにする。</p>	<p>B:本課の内容について英語の質問に答えられる。学習したことを理解し身に付けている。</p> <p>A:本課の内容について英語の質問に適切に答えられる。学習したことを十分に理解し身に付けている。 (ワークシート・ワークブック・ノート・自己評価カード)</p>

7 本時の学習

(1) ねらい

that節、when節の使用場面を設定し、会話の方向や相手からの質問に対する応答を明確にイメージ化することで、その導入や定着に伴うコミュニケーション活動において、生徒が自分の考えをスムーズに発信できる。

(2) 準備

教科書(NEW HORIZON English Course 2)、ショートテストシート、ワークシート、NEW STEP CARD(自己評価カード)

(3) 展開(全10時間計画、本時はその5時間目)
太実線枠内は本時のねらいにかかわる活動を指す。

時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目及び方法
13分	<p>【前課の復習】</p> <p>○3、4時間目の授業で扱ったthat節を含む複文を使って、簡単なコミュニケーション活動を行う。</p> <p>・ワークシート「Let's try Unit5-2」で扱ったモデルスキットをもとにして、that節を含む複文を使ったコミュニケーション活動を行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A: I think (that) we need soy sauce for fried eggs. What do you think?</p> <p>B: I think so./I don't think so. I think (that) we need ketchup.</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○T1とT2によるモデルスキットを聞いて3時間目4時間目の学習事項を確認する。</p> <p>○T1と生徒とのコミュニケーションを行う。</p> <p>○T2と生徒とのコミュニケーションを行う。</p> <p>○生徒同士(ペアワーク)によるコミュニケーションを行う。(1分30秒を2回)</p> <p>○練習した会話を発表する。(2~3人)</p> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">活動の流れ ↓</p>	<p>○that節を含む複文を会話の中で有効に生かせる具体的な場面を思い出させ、活用を意識して知識を身に付けていけるようにする。</p> <p>○T1T2で活動例を示すことで、英語を用いる雰囲気が高められるようにする。</p> <p>○コミュニケーション活動が始める際、既習事項の「Can we go?/Is it OK?(一緒に活動を始めませんか?)」を言わせて、より臨場感のあるコミュニケーション活動にしようとする意欲を、高められるようにする。</p> <p>○コミュニケーション活動に必要な要素としてアイコンタクトや簡単なジェスチャーなどのノンバーバルな要素にも注意を払っていけるようにする。</p> <p>○相手の言うことがよく聞き取れなかったときには、「Excuse me?/Sorry?」などの表現を適切な間合いで使えるようにする。</p>	<p>[B規準](表現) 様々な場面設定の中で、that節を適切に使うことができる。</p> <p>[A規準](表現) 様々な場面設定の中で、that節を適切に使い、会話をスムーズに行うことができる。(観察)</p>
13分	<p>【when節を含む複文の導入】</p> <p>○新出文法事項(when節を含む複文)とその使用場面との関連をとらえるとともに、文構造や文を用いる技能を身に付ける。</p> <p>①話す・聞く技能を身に付ける活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○モデルスキットに含まれるキーワードの意味を考え会話の方向をつかむ。</p> <p>○T1T2によるモデルスキットを聞き、教師とのインタラクションからその内容と目標文の意味及び使い方をつかむ。</p> <p>○T1T2に続いてスキット全体の音読を行う。</p> <p>○T1T2と生徒全体で会話形式の練習を行う。</p> <p>○ペアで会話形式の練習を行う。個々の理解力・応用力に応じ、モデルスキット中の語句を入れ替えた発展的練習を行う。</p> <p>○T1T2を相手に、練習した会話を発表する。(2~3人)</p> <p>○モデルスキットの発展形を聞き取り、復習課題作成の参考にする。</p> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">活動の流れ ↓</p>	<p>○when節を含む複文を会話の中に組み込み、その使用場面を具体的にイメージさせ、活用を意識して目標文を身に付けられるようにする。</p> <p>○T1T2で活動例を示すことで、英語を用いる雰囲気が高められるようにする。</p> <p>○活動の形態や方法を工夫することで、楽しく技能を身に付けられるようにする。</p> <p>○コミュニケーション活動が始める際、既習事項の「Can we go?/Is it OK?(一緒に活動を始めませんか?)」を言わせて、より臨場感のあるコミュニケーション活動にしようとする意欲を、高められるようにする。</p> <p>○コミュニケーション活動に必要な要素としてアイコンタクトや簡単なジェスチャーなどのノンバーバルな要素にも注意を払っていけるようにする。</p> <p>○相手の言うことがよく聞き取れなかったときには、「Excuse me?/Sorry?」などの表現を適切な間合いで使えるようにする。</p>	<p>[B規準](知識) when節を含む疑問文に対する応答を具体的にイメージすることができる。</p> <p>[A規準](知識) when節を含む疑問文に対する応答を具体的にイメージし、復習課題の自己表現につなげようとしている。(観察)</p>
14分	<p>②書く技能を身に付ける活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○ワークシート「Enjoy English Step15」の解説を読んで目標文の構造やモデルスキットの意味を理解する。</p> <p>○家庭学習の課題として行う、オリジナルスキット作成のための解説「復習の手引き」についての説明を聞く。</p> <p>○練習問題を行う。基本問題(Basic)は全員共通で、応用問題(Advanced)は基本が早く終わった生徒が取り組む。</p> <p>この間に、Unit5-3の予習及び、Unit5-2の復習の点検をT1T2より受ける。</p> <p>○基本問題の答え合わせを行う。応用問題は裏面下にあらかじめ載せてある解答を見て自己採点する。</p> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">活動の流れ ↓</p>	<p>○ワークシート裏面の「復習の手引き」を使ってオリジナルスキットを作るための手順を確認させ、個々の理解力や応用力に応じてスキット作成がスムーズに行えるようにする。</p> <p>○基本問題を終えた生徒が積極的に応用問題に取り組めるよう、机間指導をしながら促すようにする。</p> <p>○ワークシートに含まれる練習問題に生徒が取り組んでいる間、全員の予習及び復習課題(2時間目、3時間目に学習したモデルスキットをもとにオリジナルスキットを作成する)の添削を行い、個々の定着に応じて助言を与えられるようにする。</p>	

〈本時において活用を意識しながらwhen節を含む複文を用いる技能を確実に身に付けるための工夫〉
 (ア) 目標文単独ではなく、それを含むスキットのかたちで導入し、目標文とコミュニケーション活動の関連を意識できるようにする。学習プリントにも同様のスキットを載せ、音声と文字の両面で目標文の定着を図る。
 (目標文の使用場面を設定し会話のイメージ化を図る)
 A: Do you have any plans for this weekend?
 B: No, I don't.
 What do you usually do when you have time? → 目標文①
 A: I (usually) read comics when I have time. → 目標文②
 (イ) モデルスキットの導入で会話の方向や相手からの質問に対する応答を明確にイメージ化できたら、モデルスキット中の語句の簡単な入れ替えをしながらコミュニケーション活動をさせ、目標文を使って自分の考えをスムーズに発信できるようにする。
 (ウ) モデルスキットを参考にしたオリジナルスキットの作成を、家庭学習の課題として与える。本時では、課題作成のための補助として「復習の手引き」を配布・説明し、個々の理解力や応用力に応じてスキット作成がスムーズに行えるようにする。

5分	<p>【新出単語の意味の確認と音読練習】</p> <p>○フラッシュカードを見ながら、新出単語の意味と読み方を確認する。</p> <p>○読み方の練習をする。(拍子を伴った音読練習)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>活動の流れ ↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○英語を見ながら音読する。 ○日本語の意味を見ながら英語を音読する。 ○全体で音読練習する。 ○個別に音読練習する。 </div> <p>拍子を伴った音読練習について</p> <p>4拍子を刻み、その強拍部分(奇数拍)とそれぞれの単語のアクセントの位置が重なるように聞かせることで、アクセントの位置を正確に把握し覚えさせることができる。</p> <p>(例) ● . . . ● . . . ● . . . ● . . .</p> <p>sh<u>ould</u> sh<u>ould</u> compl<u>ain</u> compl<u>ain</u></p>	<p>○拍子を伴った音読練習をさせ、各単語のアクセントの位置を正しくつかめるようにする。</p> <p>○表現しにくい子音の発音や、日本語にはない音の発音の仕方を具体的かつ端的に説明し、自信をもって大きな声で発音できるようにする。</p>
----	---	---

5分	<p>【TFテスト形式による教科書の内容の確認】</p> <p>○ピクチャーチャートを見ながら本文のおおまかなシチュエーションをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>活動の流れ ↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○T1による本文の音読を、教科書を見ないで聞く。 ・1回目はナチュラルスピードでの聞き取り。 ・2回目は内容をつかみやすいスピードでの聞き取り。 ○TFテストには含まれない内容について、T1T2とのインタラクション(日本語・英語)を通して確認する。 </div>	<p>○2種類のTFテストを作成(日本語によるものと英語によるもの)し、習熟度に合わせて、生徒がどちらかを選んで取り組めるようにする。</p> <p>○聞き取る段階においても、理解力に優れている生徒には1回目のナチュラルスピードで、聞き取りが苦手な生徒には2回目のややゆっくりとしたスピードで、それぞれ正確に内容をつかめるよう、習熟度に応じた目標をもたせるようにする。</p> <p>○TFテストの達成度が高かった生徒は挙手させ、次時の活動への意欲を高めていけるようにする。</p>
----	--	---